

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **81** 2022
夏号

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.24

令和3年度
公立大学法人奈良県立医科大学決算



なかよし保育園の七夕行事



Contents

特集	理事長・学長からのメッセージ vol.24	3
	令和3年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算	4
	MBT 研究所だより (第25報)	5
	国際交流センターだより vol.8	6
	未来への飛躍基金だより	8
	先端医学研究支援機構だより	8
	働き方改革だより	9
	図書館だより	10
Topics	病院情報システムの適正な利用についての最近の話題	
	一 病院情報システムの利用者心得のバージョンアップ	11
	看護部の紹介	12
Campus News	学生時代の研究結果を2編の論文に出版しました	13
	地域協創アクションプログラム WEB セミナーを実施しました	13
	在宅医療の提供モデル確立に向け議論	13
	長榮MBT 特命教授 (前パナソニック会長) が医学部生に特別講義	13
	第2回MBT 映画祭開催に向け準備を進める	14
	『ねづくりや』でMBT セミナーを実施しました	14
	森MBT 特命教授 (DMG 森精機取締役社長) が医学部生に特別講義	14
	ぶれも薬局本店内の休憩所スペースにて「MBT ぶれもカフェ」をオープンしました	14
	医療法人梅華会理事長梅岡比俊氏がMBT 特命講師に就任されました	15
	MBT ウエルシア薬局健康ステーションを開催しました	15
	大学院看護学研究科のオープンキャンパス2022を開催しました	15
	モルミル株式会社の設立	15
	V-iClinix 講座第8回運営委員会を開催しました	16
	大阪・関西万博に関する意見交換を行いました	16
	新型コロナウイルス感染症対策記録集 Web サイトを公開しました	16
	エコミ講座でMBT 講演を行いました	16
	短冊に思いを込めて～病院北玄関の七夕飾り～	17
	公的研究費の適正使用に係る研修会を開催しています	17
	矢野MBT 特命教授 (ダイソー創業者) が医学部生に特別講義	17
Winner Report	日本口腔科学会近畿地方会において新人賞を受賞しました	18
	第6回日本臨床知識学会学術集会 (一般演題) で優秀賞を受賞しました	18
	第40回日本口腔腫瘍学会学術大会で優秀ポスター賞を受賞しました	18
	第16回医療マネジメント学会奈良支部において優秀演題賞を受賞しました	18
	「臨床放射線」誌2021年 (第66巻) にて臨症例賞を受賞しました	19
	日本小児科学会賞を受賞しました	19
	第62回日本呼吸器学会学術講演会「呼吸器病学ことはじめ」にて優秀賞を受賞しました	19
	第81回日本医学放射線学会総会にて教育展示優秀賞を受賞しました	19
	第122回日本外科学会定期学術集会 研修医部門で優秀演題賞を受賞しました	20
	第81回日本医学放射線学会総会にてCyPos 賞としてBronze Medalを受賞しました	20
	医学科同窓会 海外留学助成金蔵櫃学術奨励賞を受賞しました	20
	第38回奈良県医学検査学会において会長賞を受賞しました	20
	第7回公益社団法人日本女医会学術研究助成 溝口昌子賞を受賞しました	21
	国際ソロプチミスト奈良一あすか女性研究者賞を受賞しました	21
	日本超音波医学会第95回学術集会で奨励賞を受賞しました	21
	国際ソロプチミスト奈良一あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞しました	21
	2022 APSCVIR (アジアオセアニアIVR 学会) でGold Medalを受賞しました	22
	第11回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	23
	横断的共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました	23
	第29回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	24
	第108回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会においてYoung Endoscopist Awardを受賞しました	24
	The 15th Asian Congress on Oral & Maxillofacial SurgeryでCertificate of Award-Poster Presentationを受賞しました	24
	令和4年度文部科学省科学研究費助成事業の決定	25
Information	大学院入試日程	30
	公開講座情報	31
寄附者ご芳名	「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございます	31
	メディア掲載情報	32
	編集後記	32

私の夏の夢 – MBT 橿原スポーツ・学術研究都市構想 –

理事長・学長 細井 裕司

奈良医大を全国的に存在感のある医科大学にする目標を達成するために、いろいろな取り組みを行ってきました。その一つが2004年に住居医学を発想し、これを実現するために大和ハウス(株)から6億円の寄附をいただいたことから始まったMBT構想です。200社以上の会員企業に医学知識を提供し産業イノベーションを起こしていること、全国20カ所で医学を基礎とするまちづくりを行っていること、そしてMBT難病克服キャンペーン(協賛企業の商品等を用いた難病克服の広報、セミナーや映画祭の開催)などを通じた社会貢献は順調に推移し、経団連と連携しながら一層の発展が期待されています。

このMBTの理念を土台に、「MBT 橿原スポーツ・学術研究都市構想」を発想しました。奈良医大前に新駅ができれば、奈良医大現キャンパスを出発点として、新駅、新キャンパス、農地、橿原運動公園から坊城駅に通じる一つのベルト地帯ができます。橿原運動公園は約10年後に開催される奈良国体の会場の候補地となっています。また、近隣には、神武天皇陵、畝傍山、橿原考古学研究所、橿原公園、橿原神宮があり、学術研究都市にふさわしい施設が整っています。

この構想のアイデアのもとになったのが、「けいはんな学術研究都市」です。私は、平成28年から令和2年まで文科省・JSTの大型プロジェクトである「けいはんなリサーチコンプレックス(RC)」のオーガナイザーを務め、現在もその後継組織である「けいはんなRC推進協議会」の会長を務めています。このような学術研究都市を奈良医大を核として作れないかと考えていたのです。奈良医大は大阪、京都、関西へのアクセスなど交通の便の良いところに立地しているだけでなく、日本有数の高度な医学とそれを企業や社会に還元する組織「MBTコンソーシアム」を持っています。この環境は、多くの研究機関や企業にとって大変魅力的なものだと思います。

奈良医大とMBTの力を利用することによってメリットのある企業・団体が誘致に応じてくれることが期待できます。ベルト地帯には橿原運動公園があり、この新しい都市に「スポーツと医学」というテーマも浮かんできます。隣接地には天皇の御陵や橿原神宮があり、有名な橿原考古学研究所も近くにあり、このような環境は医学に基づく考古学「考古医学」の発想にもつながります。

附属病院の新外来棟(仮称)は南向きになることは県によって決定されています。病院と直結する新駅ができると、「MBT 橿原スポーツ・学術研究都市」は、近鉄橿原線の新駅と南大阪線の坊城駅に挟まれた形になります。新駅と坊城駅を結ぶ新交通システムの導入が期待できます。この構想には、私が提唱しています附属病院はじめ現キャンパスの高さ制限の緩和も関係します。

この「私の夢」の実現のためには、奈良県、橿原市、国、国公私大学の研究機関、企業がこの構想に魅力を感じ、実現への意欲を持っていただくことが必要です。そのためには、核となる奈良医大、MBTの魅力を高めること、そして実現のための努力が重要だと思っています。

教職員、学生の皆様におかれましては、この構想に賛同いただき、協力いただきますようお願い申し上げます。

奈良医大を核とした「MBT 橿原スポーツ・学研都市構想」(細井私案)



青線の枠内が本構想で想定される地域

令和3年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

令和3年度決算 収益 / 579億5,524万円(+36億8,074万円) 費用 / 555億2,227万円(+21億7,569万円)

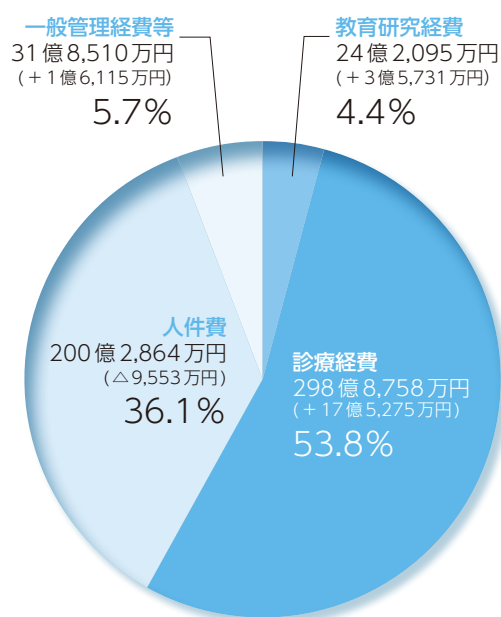
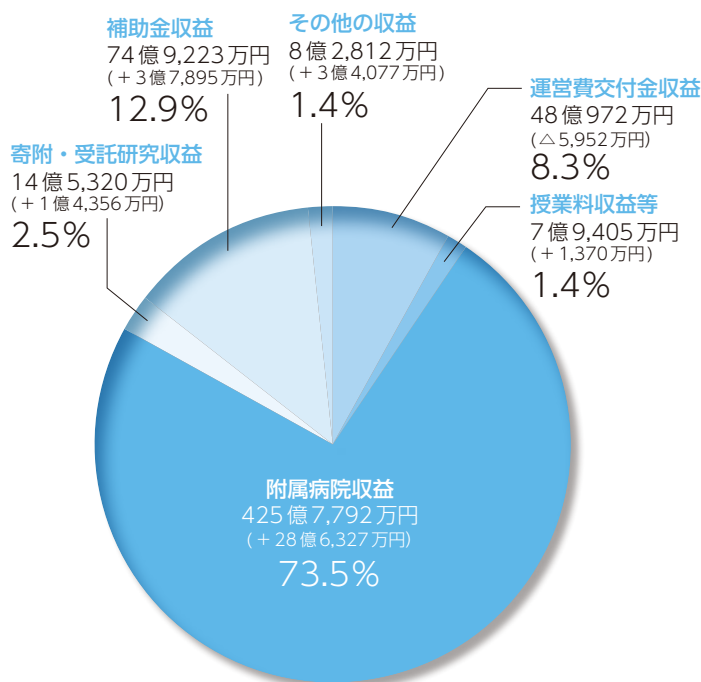
差引 24億3,297万円の黒字(R2 9億2,791万円の黒字)

※ () 内は前年との増減額

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症患者の受入に伴う患者抑制の影響もありましたが、病床運用の効率化等による入院単価の増、外来患者数の増加等により附属病院収益が増加するとともに、病床確保料等の新型コロナウイルス感染症に関連する補助金収益の増加などにより、24.3億円の黒字となり、昨年度の9.2億円の黒字から大幅に増加しました。

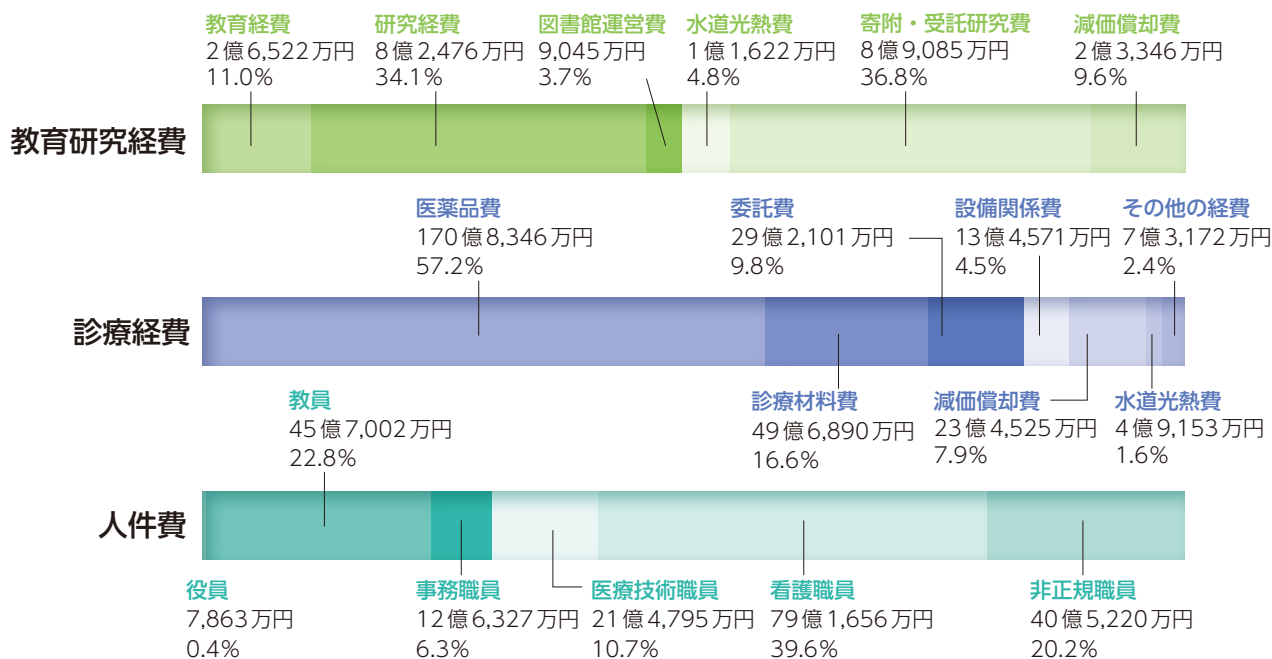
今年度も新型コロナウイルス感染症への対応が求められる一方で、附属病院収益が大幅に減少していることから新型コロナウイルス感染症収束後の経営状況が厳しくなることが予想されます。

皆さまには引き続き経費節減など経営改善に向けた取り組みへのご協力をよろしくお願いいたします。



収益

費用



令和3年度は、一般財団法人弘済会から、2,000万円の助成を受け、web会議システムの更新や外来診察室の改修工事などを行いました。

1. MBT 特命教員

MBT 研究所では、各界の著名人に MBT 特命教授として学生に接していただくことにより、視野を広く持つ人間が育成されるよう努めています。現在、ダイソー創業者矢野博丈先生、DMG 森精機社長森雅彦先生、パナソニック前会長長榮周作先生にご就任いただいております。2020 年 12 月 21 日には矢野博丈先生、2021 年 6 月 7 日には森雅彦先生の第 1 回目について、本年 5 月 16 日には長榮周作先生、5 月 30 日には森雅彦先生の第 2 回目の特別講義が行われました。

さらに、6 月 7 日には医療法人梅華会理事長梅岡比俊先生に MBT 特別講師にご就任いただきました。梅岡比俊先生は本学卒業後、日本最大の開業医コミュニティである M.A.F を主催されるなど、多面にわたり活躍されております。梅岡先生には、MBT コンソーシアム在宅医療部会を主導していただいております。

また、7 月 4 日には矢野博丈先生の第 2 回目の講義をお願いしました。



長榮周作 MBT 特命教授



森雅彦 MBT 特命教授



梅岡比俊 MBT 特命講師



矢野博丈 MBT 特命教授

2. 経団連「地域協創アクションプログラム WEB セミナー」

4 月 11 日、経団連・MBT コンソーシアム・奈良医大の 3 者の共催で地域協創アクションプログラム WEB セミナー「医学的に正しいコロナ感染対策による MBT ビジネス活性化セミナー」を開催しました。今回のセミナーは経団連地域協創アクションプログラムの中でも先陣を切るものであり、経団連会員、MBT コンソーシアム会員、奈良医大教職員等、約 80 名が参加しました。

本 WEB セミナーでは、経団連上席主幹の大橋泰弘氏の司会で、細井理事長と笠原敬教授がコロナ感染対策の根幹は「3 密（密閉、密接、密集）回避」ではなく、医学的に正しい「3 感染ルート（接触・飛沫・エアロゾル）遮断」であること、そして「命の防衛」、「企業の防衛」のために企業や団体に所属する個人に正しい感染対策教育が重要であることを、MBT コロナ克服キャンペーンで積み上げてきた具体的実績を紹介しながら訴えました。



セミナーのひとこま

3. MBT の広報

(1) MBT コンソーシアムホームページのリニューアル

見易さの向上と情報発信の多様化に対応して MBT コンソーシアムのホームページをリニューアルしました。ホームページは、MBT コンソーシアムの日常活動を幅広く、スピーディ&タイムリーに国内外に発信する重要な顔です。4 月 1 日に切り替えたリニューアル版では、1) トップページからあらゆる情報にアクセスが容易、2) スマホでも見やすいページ構成、3) Facebook、YouTube との連動等の改善を施しております。「MBT コンソーシアム」で検索してください。

(2) 新聞広告

5 月 25 日の産経新聞東京 23 区版朝刊にカラー広告を掲載し、難病克服キャンペーン協賛企業（現在 20 社）を紹介しました。これにより、難病克服キャンペーンへの参加メリットを企業の皆様に感じていただき、参加企業の増加につなげたいと考えております。

(3) 吊革広告

MBT 活動「医学を基礎とする産業創生、まちづくり」を、より多くの皆さんにお知らせすること、また 2023 年 1 月 14 日に東京有楽町で開催予定の「第 2 回 MBT 映画祭」を首都圏の皆様にお知らせするため、都営地下鉄 4 路線で吊革広告を 6 月 1 日から実施しております。この吊革広告では、4 路線の 1 車両を 1 年間借り切り、その車両の全吊革に広告が筒状に取り付けられています。地下鉄は、車内の広告に視線が向きやすく、広告効果が高いと考えております。



吊革広告の車内写真



吊革広告拡大

国際交流センターだより vol.8

留学報告：シティ オブ ホープ ナショナル メディカル センター（米国）

消化器・総合外科学 非常勤医師 中村 広太（留学期間：2021年1月～）

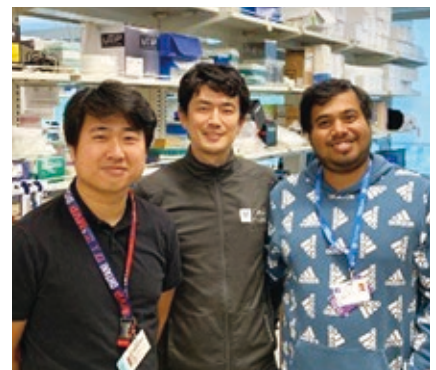
平成21年（2009年）奈良県立医科大学卒、消化器・総合外科、中村広太と申します。現在、私はアメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルス郡モノロビアにあり、City of Hope National Medical Center、Ajay Goel 博士の研究室に2021年1月から留学しています。COVID-19の流行のため、渡米当初は入国や外出も制限され、ファストフード以外の飲食店が全て閉まっているという状況でありましたが、同年の春先頃より徐々に状況が改善し、今では何事もなかったかの様に生活ができています。

アメリカでの生活ですが、随分日本とは違うのでカルチャーショック的なものも感じていましたが、今では色々な事に慣れてきて、楽しめる様になってきました。何と云ってもカリフォルニアは気候が良いので、1年を通してほぼ雨は降らず、アメリカ人は年がら年中BBQや野外でのパーティーをしています。英語に関しては、上達を期待していましたが、想像以上にハードルが高く、ネイティブの英語を聞き取る事に苦労しています。

私の研究についてですが、私は主にリキッドバイオプシーと呼ばれる血液中の遺伝子情報から癌の状態等を予測する手段の確立を目的とした研究を行なっています。特に、細胞外小胞内の遺伝情報を用いて癌患者と健常者を識別する事を試んでいます。具体的には、癌組織等の網羅的遺伝子解析結果から、癌の診断や生存・再発といった目的に最適な遺伝子候補を選出し、それを複数の施設から得た多数の実臨床検体を用いてその実用性を検証しています。渡米し、約一年半経過しましたが、将来の実臨床の一助となる様な成果を目指し、今後も研究活動を続けていく所存です。今後とも何卒宜しくお願い致します。



研究所外観



研究所のメンバーと

海外からの研究者紹介：Ananto Satyapradan先生（インドネシア）

整形外科学 Ananto Satyapradana（研修期間：2022年4月～）

Hello there, nice to meet you, my name is Ananto Satyapradana or usually called Dana as well. I am an orthopaedic surgeon from Indonesia, country in southeast part of Asia. Now I am taking Foot & Ankle fellowship program in Orthopaedic Department of Nara Medical University, under supervision of Professor Tanaka, doctor Taniguchi, doctor Kurokawa, and doctor Miyamoto.

The reason I chose Nara Medical University is because the Foot & Ankle Fellowship program is famous and quite well known. I was able to see and learn quite sophisticated technique and update my knowledge under guidance of very capable teacher. Currently, apart from following surgery and learning to see various patients at the clinic, I am also involved in research on implant materials in relation to the joint tissue triggered by Professor Tanaka.

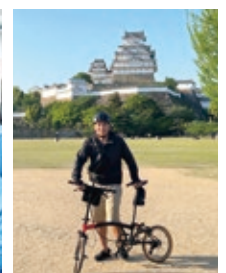
Living and studying in Japan is very enjoyable, especially in Nara Medical University, the people are very kind and friendly also willing to help patiently, I was impressed by the hospitality of the orthopedic department staff of Nara Medical University. Meanwhile, every weekend I still have a free time that I use to explore many cities and landmarks in Japan with my bike (I brought my bike because I like cycling). I didn't find any difficulty to have new friends and hangout since English quite understandable here.

At the end, I feel very grateful and lucky to study in Nara Medical University especially in Orthopaedic Department. I am sure all the knowledge that I get will be useful to help me develop myself and my country as well. I hope that international cooperative relations, especially with Indonesian students, can be further fostered and maintained.

Thank you, see you in Bali, Indonesia



奈良県立医科大学の手術室にて



日本の美しい歴史探訪

海外リサーチ・クラークシップ成果報告：ジャーナルに掲載されました

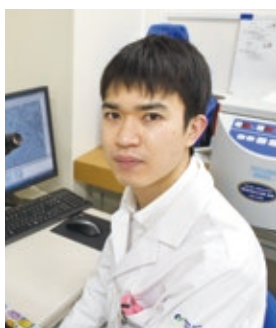
海外リサーチ・クラークシップ参加後に研究活動を継続している本学学生の研究成果をご紹介します。佐々木俊秀君は筆頭著者で、2編目の論文が発表されました。ご指導を賜りました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

Surg Laparosc Endosc Percutan Tech

Journal: Surgical laparoscopy, endoscopy and percutaneous techniques (略称: Surg Laparosc Endosc Percutan Tech)
Article title: Safety and feasibility of single-incision laparoscopic distal pancreatectomy.
Publication date: 2022 May 18. Online ahead of print.
doi: 10.1097/SLE.0000000000001064.

医学科6年 佐々木 俊秀 (消化器・総合外科学所属)

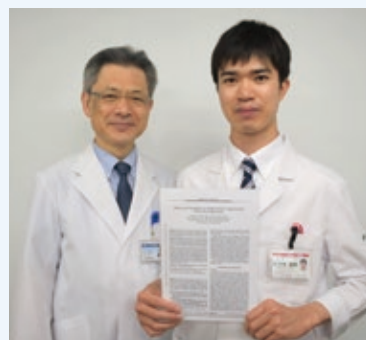
本論文では、2年次のリサーチクラークシップで国立台湾大学にて行った単孔式腹腔鏡下膵尾側切除についての研究をもとに発表させて頂きました。多くの方々のサポートがなければ今回の論文発表にはたどり着けず、特に国立台湾大学外科の楊卿堯先生には留学中の研究および生活に関して全面的にお世話になり、本学消化器・総合外科の庄雅之教授、中川顕志先生、西和田敏先生には留学中、留学前後の丁寧な研究指導を頂きました。前号でご紹介致しましたIJCOの論文と併せて、学生生活の間に基礎・臨床両方の論文発表をさせて頂いた経験は何にも代え難く、ご支援頂いた皆様に深く感謝申し上げます。今回学んだリサーチマインドを今後の医師人生に活かして参ります。



MESSAGE

消化器・総合外科学 教授
庄 雅之

今回、本学6年生佐々木俊秀君が筆頭著者である論文が、「Surg Laparosc Endosc Percutan Tech」誌に掲載されました。本論文は、海外リサーチクラークシップ助成制度の下、国立台湾大学に2ヶ月



間留学した際にYang教授から研究テーマとして与えられた単孔式膵切除術の有用性を検証したものです。帰国後、論文化に向けて様々な検討を加え、最終的に台湾大学と奈良医大の臨床データを比較検討し、論旨をまとめてくれました。佐々木君は、台湾では中国語も混在するデータベースから根気強くデータを収集し、また本学での勉学の合間、夜間や週末に多くの時間をかけて努力していました。本論文は彼にとって2編目となる筆頭英文原著論文となる快挙ですが、さらなる飛躍、大いなる活躍を祈ってやみません。最後に、学生に対し貴重な機会を創出して頂いた「未来への飛躍基金」、また直接指導をしてくれたYang教授、中川顕志先生に心から感謝申し上げます。

MESSAGE

国立台湾大学 教授 楊 卿堯 (Ching-Yao Yang)

Dear all friends,

First of all, I wanted to send my biggest congratulation to Dr Toshihide Sasaki, and Prof. Masayuki Sho.

This accepted paper has a lot of great significance:

- 1.This clinical paper is the very few large series till now, that provided the evidence of safety and feasibility of SILS-DP.
- 2.This is the "first" cooperatively surgical research between Nara Medical University, Japan, and National Taiwan University, Taiwan.
- 3.This paper represented the dedication, and persistence of Dr Sasaki supervised by Prof. Sho. Most of the research materials and data were collected by Dr Sasaki during his overseas exchange-student period guided by me in Taiwan.
- 4.In the end, I also wanted to share one thing you may not know. The world-first SILS-DP case was done by me on May-21, 2010, and published a poster presentation during 2011 SAGES annual congress.
- 5.Finally, this paper represents the milestone of the start of real cooperation and friendship between Nara Medical University, and College of Medicine, National Taiwan University.



未来への飛躍基金だより

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

この基金は、奈良県立医科大学に従事する現役の教職員、卒業された諸先輩方、そして保護者の皆様、県民や全国の皆様から寄せられた寄附金によるものです。皆様から頂いたご寄附は、教育、研究及び診療活動への支援、大学及び附属病院の施設整備、大学と社会とのつながりへの支援等、幅広く活用させて頂いております。

寄附者ご芳名の銘板を更新しました

本銘板は、本基金にご貢献頂いた皆様の末長く顕彰するため、ご芳名を掲示させて頂いております。

本学附属病院のD棟1階北側に設置しておりますので、附属病院にお越しの際にご覧ください。



寄附者ご芳名の銘板（本学附属病院1階）

看護学科白衣授与式が開催されました

6月22日、令和4年度看護学科白衣授与式が行われました。未来への飛躍基金を活用して、看護学科1年生に実習用白衣及びシューズが授与されました。看護学科で学ぶ学生の皆さんが、良き医療人として将来活躍されることを願っています。



川上看護学科長から代表学生へ授与

紺綬褒章のご案内

本学は内閣府賞勲局より紺綬褒章に係る公益団体として認定を受けております。基金に500万円以上のご寄附を頂いた方（個人）及び1,000万円以上のご寄附を頂いた団体は、紺綬褒章の授与の対象となります。授与申請については本学の取扱基準に基づいて行いますので、詳しくは総務広報課までお問合せください。

【奈良県立医科大学 総務広報課】

TEL : 0744-22-3051 (内線 : 2803) E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://www.narmed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>
または「未来への飛躍基金」で検索！

こちらからもアクセスできます▶



先端医学研究支援機構だより

医学研究支援センターに米田先生が着任されました

医学研究支援センター 講師 米田 明弘

2022年7月1日より先端医学研究支援機構医学研究支援センターに着任しました米田明弘と申します。前職は、北海道大学産学地域協働推進機構フード&メディカルイノベーション推進本部難治性疾患治療部門にて、肝硬変や慢性膵炎といった臓器線維症や膵癌といった難治性癌の発症メカニズムの解明とそれらの新規治療法の開発について、疾患モデル動物の作製と解析を通じて行って参りました。また、研究者にとってより良い研究環境のもとで動物実験を行なっていくような動物実験施設の運営・管理にも携わって参りました。これからは、本学の動物実験施設をご利用される教職員・学生の皆様が、より良い環境で動物実験を含む研究活動を実施できるようサポートさせて頂ければと考えておりますので、皆様のご協力頂くことが多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



働き方改革だより

医師への時間外労働時間上限規制適用開始（2024年4月～）に向けた準備を進めています。

☆本学の対応 **特例水準指定（B水準 年1,860時間）を申請予定**
そのために必要な医師労働時間短縮計画を策定中

*注 令和4年度の診療報酬改定により、地域医療体制確保加算の要件に医師労働時間短縮計画の作成が追加されたことに伴い、令和4年9月末日までに医師労働時間短縮計画を作成し、近畿厚生局への届出が必要となっています。

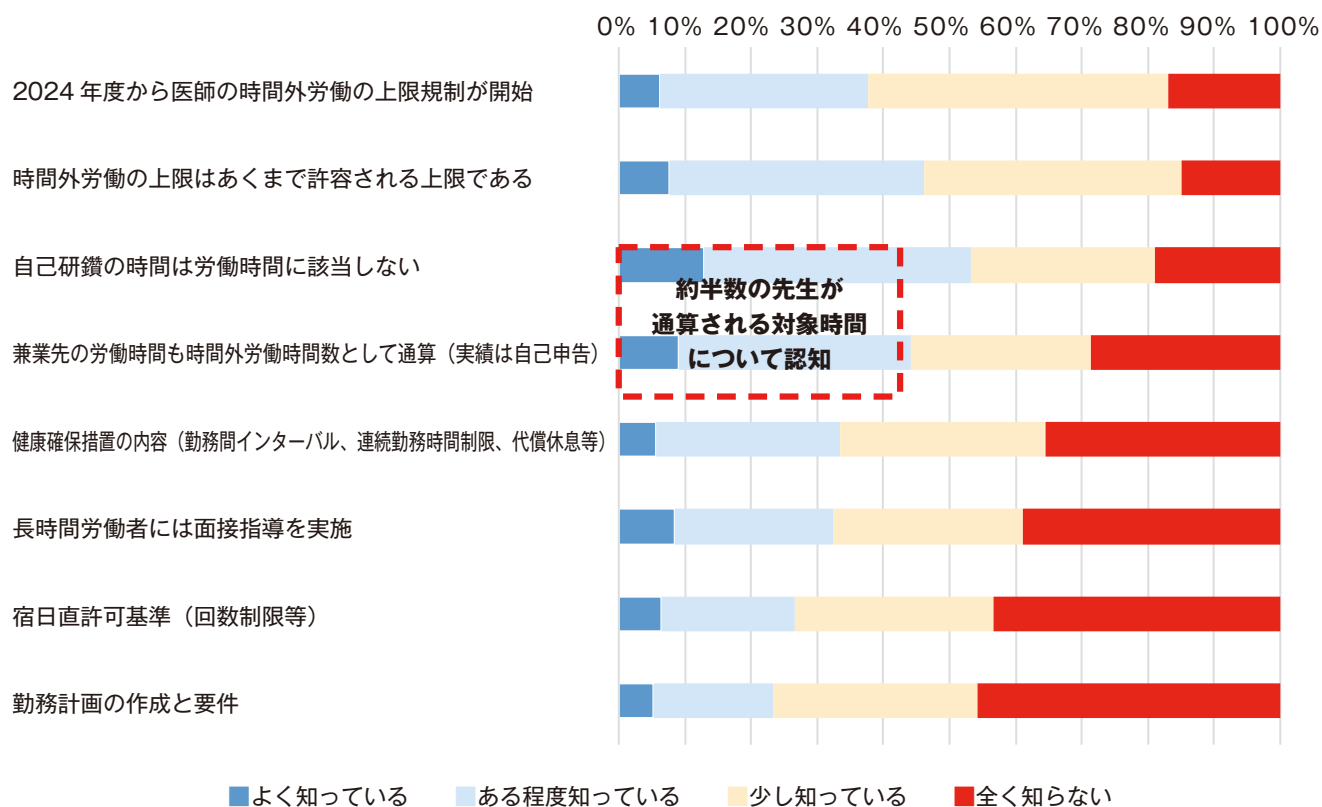
◎医師労働時間短縮計画で定めなければならないこと

この計画を策定するためには、「労働時間の把握」と「健康確保措置の実施」が必要となります。
 現在、働き方改革プロジェクトにおいて、下表の①～④についての案を作成しています。

	検討・実施事項	実施時期等
労働時間の把握	勤務時間実態調査の実施	令和4年4～5月に実施済
	①労働/非労働時間（研鑽等）の範囲の定義づけ	令和4年9月までに ○働き方改革プロジェクトで案を作成 ○働き方改革推進委員会、病院経営・運営会議、 病院運営協議会、役員会での審議・承認予定
②夜間帯の勤務化が必要な診療科の特定		
健康確保措置	③勤務計画（シフト）に関するルール作成	
	④代償休息付与のルール作成	

※参考までに…

昨年度の職員満足度調査にて、当院医師を対象に医師の働き方改革に関するアンケートを実施しました。
 その集計（速報値）は、下記のとおりです。



意外と知らない図書館サービス

図書館といえば、本を借りたり、電子ジャーナルを見たりといったイメージがあると思いますが、そのほかにもいろいろなサービスがあるのをご存じでしょうか。これからご紹介するサービスを知っているという方はかなり図書館を使いこなされています。今回は、皆様にあまり知られていない図書館のサービスをまとめてご案内します。

◆PPV (ペイパービュー) 無償提供

現在、本学で購読していない一部の電子ジャーナルについて、PDF ファイルの無償提供を行っています。サービスの詳細はホームページをご覧ください。

〈対象出版社〉

Elsevier (ScienceDirect)、Karger、Taylor & Francis、Bentham Science

〈申込方法〉

専用メールアドレス (getppv@naramed-u.ac.jp) から申込
メール題：PDF ファイル無償提供希望

記入事項：職員番号または学籍番号、所属または学年、氏名、文献書誌番号 (著者名、論題、雑誌名、巻号ページ、発行年)、PubMed 検索の場合 PMID

※ 1日5件まで受け付けます。

※ 申込が規定数に達した場合は年度途中であってもサービス終了とさせていただきます。

〈ホームページでの案内〉

図書館ホーム>利用案内>学内向け利用案内>一部未購読電子ジャーナル全文無償提供サービス利用案内

◆ウェビナーアーカイブ公開中

昨年7月から始めた図書館ウェビナーを、動画アーカイブとして公開しています。毎回のウェビナー終了後、2～3日中には動画をStreamに登録しています。Streamでチャンネル名『図書館ウェビナー』をご覧ください。または、毎月お知らせしているウェビナーの案内メールにアーカイブのリンクを貼っています。

図書館ウェビナーアーカイブ：

<https://web.microsoftstream.com/channel/4fd44d29-8c7f-4fac-9dfb-6c112ff116cf>



〈ホームページでの案内〉

図書館ホーム>学習サポート>図書館ウェビナーアーカイブ

◆貸出中資料の予約がメールでできる

借りたい本が貸出中ということはよくあります。図書館の本を予約したいとき、メインデスクに来なくても、メールを送信いただければ資料の予約ができます。

〈申込方法〉

宛先：library@naramed-u.ac.jp

メール題：予約資料

記入事項：

氏名、学籍番号または職員番号、所属または学年、連絡先 (内線・携帯番号またはメールアドレス)、予約資料名

◆長期延滞ペナルティーあります

これはあまり提供したくないサービスですが、資料を長期延滞 (3か月以上) していたら、ペナルティーとして図書館利用を停止にしています。入退館のほか、図書の出借もしていただきません。返却いただきましたらすぐにお使いいただけるように設定を戻しますので、速やかな返却をお願いいたします。

◆新着雑誌の1日返却期限を廃止

発行後1年以内の新着雑誌について、多くの方にご利用いただけるよう今までオーバーナイト (1日) の返却期限としていました。ただ、最近は電子ジャーナルの利用も増えてきて冊子体の最新号の需要はそこまで多くなく、また、コロナ禍で来学できず翌日返却の新着雑誌は借りにくいという状況がありました。そこで、2022年5月から新着雑誌の返却期限をほかの資料と同じく2週間としました。これにより、新着雑誌がどうかを気にすることなく資料の貸出ができるようになりました。

◆奈良県立図書情報館との連携サービス開始

2022年4月から、奈良県立図書情報館の資料が当館を通じてご利用いただけるようになりました。貸出希望の方は、Myないとサービスから「貸借依頼」をお申し込みください。返却は、情報館の資料を図書館2階メインデスクまでご持参の上、手続きしてください。

※返却BOXへは絶対に入れないでください。返却者の特定ができません。資料破損の可能性があるためです。

※資料のやり取りには1週間ほどかかります。

図書館をよく使われている方でも意外と知らないサービスをご紹介しました。これらはニュースレターでタイムリーなトピックとしてお知らせしています。図書館の動向チェックは月に一度配信しているニュースレターが役立ちますので、ぜひニュースレターもご一読ください。そのほか、図書館関連のサービスでお困りごとがあればお気軽にご相談ください。

病院情報システムの適正な利用についての最近の話題

— 病院情報システムの利用者心得のバージョンアップ —

医療情報部 部長 玉本 哲郎

日常の診療および病院運営管理業務の電子化が当院のような大学病院のみならず一般の病院でも進んできている。病院に勤務する医師、看護師をはじめとする各種医療専門職および医療事務職など病院情報システムのすべての利用者は、情報倫理についての共通理解のもとに、安全かつ適正にシステムを操作し、チーム医療を推進することが求められている¹⁾。その一方で、病院スタッフが医療情報システムを正しく取扱うことに関しては、日常業務に忙殺されること、その仕組みを理解する機会に乏しいことなどから十分理解されていると言いつつ難しい状況にあると言われています。医療情報が電子化された現在では、万一情報が漏洩すれば瞬時に大量の情報が流出する可能性があり、原因として端末の誤操作や診療情報活用の知識の甘さが挙げられています²⁾。

このため、日本医療情報学会の医療情報技師育成部会は、医療情報技師や上級医療情報技師など病院情報システムに関わる専門職と、病院情報システムの利用者が、安全かつ適正なシステム利用の基本を共有する資料として活用されることを目的に「病院情報システムの利用者心得」を2013年11月に初版(Ver.1)を作成し、公開しています。また、2021年の個人情報保護法の改正の他、経年変化を踏まえた修正を加えたVer. 2.0が、2021年5月にリリースされ、最新版はVer. 2.1となっています。また、「病院情報システムの利用者心

得」は、①病院情報システムの基盤となる診療情報の取り扱いについての基本的考え方(図1A, B)と②病院情報システムを適切に操作するための基本的知識をキーワード(KPh: Key Phrase)として文章で示したのみ(図2)であり、これを病院のスタッフに広めるための解説書として、「病院情報システムの利用者心得 解説書」があり、当院でも実際に新規採用者の講習会等で教材として使用しています(図3)。この解説書も、病院情報システムの利用者心得の改定に伴い、2022年3月にVer. 2.1がリリースされています。以前のバージョンは書籍として販売されていましたが、今回のバージョンからは、医療情報技師育成部会のホームページから無料でダウンロードできるようになっています。

上記の「病院情報システムの利用者心得(Ver. 2.1)」と「病院情報システムの利用者心得 解説書(Ver. 2.1)」の検索先を以下にまとめておきましたので、病院スタッフの日々の適正な利用に役立てていただければと思います。

参考文献：

- 1) 病院情報システムの利用者心得(Ver.2.1) . 日本医療情報学会 医療情報技師育成部会 . <https://www.jami.jp/jadite/new/hospital/kokoroe.html>
- 2) 病院情報システムの利用者心得 解説書(Ver.2.1) . 日本医療情報学会 医療情報技師育成部会 . <https://www.jami.jp/jadite/new/hospital/kokoroe.html>

総合目標

病院情報システムの一般利用者が知っておくべきことを再確認する。

到達目標 I

患者との良好なパートナーシップを形成するために、多職種からなるチームの一員として、診療情報を適正に扱える。

実践 I I-1

患者の権利に配慮した診療情報の取り扱いをする。

実践 I I-2

患者の安全を確保するために、患者と協力して、正確な情報収集に努めるとともに、有害事象が起こらないよう情報の流れを共有する。

実践 I I-3

病院情報システムを用いた診療記録には、診療などの一次利用と、継続的改善のための二次利用があることを理解し、運用管理の原則に従って適切に記載する。

図 1A 診療情報の取り扱いについての基本的考え方 . 総合目標と到達目標 I

実践 II - 4

医療事故防止に役立つように病院情報システムを活用できる。病院情報システムに医療事故防止機能があることを理解し、その機能を活用することが重要であることを認識する。

<医療事故防止のためのシステム活用>

KPh II -4-1 :

患者誤認防止機能、および指示内容・行為の突合機能を把握し、正しく活用する。

<警告表示把握時の留意点>

KPh II -4-2 :

警告表示には、適切に対応する。

- ① 警告が表示されたら、病院のルールに沿って、適切に対応する。
- ② 警告表示がなくても、確認を怠らない。

図 2 病院情報システムの適正操作のための基本的知識とキーワード

到達目標 II

病院情報システムの安全性と有用性を高めるために、システムを適正に扱える。

実践 II - 1

病院情報システムの入出力端末を正しく操作できる。

実践 II - 2

ネットワークに関する機能を知り、正しく利用できる。

実践 II - 3

病院情報システムのトラブル時に、正しい対応ができる。

実践 II - 4

医療事故防止に役立つように病院情報システムを活用できる。

実践 II - 5

病院情報システムの有用性を理解し、改善すべき点を提案できる。

図 1B 診療情報の取り扱いについての基本的考え方 . 到達目標 II

IDおよびパスワードの 適正運用の事例の説明



図 3 解説書内での事例

看護部の紹介

看護功労者知事表彰を受けて

C棟4階 師長 中西 久仁子 入退院支援センター 師長 谷口 弘美 中央手術部 副師長 金子 匡伸

5月12日、奈良看護研修センターにおきまして、令和4年度奈良県看護功労者知事表彰を受賞しました。当日壇上で表彰状を手にし、来賓の方々から御祝いの言葉を頂きながら、様々な方面の沢山の方に応援して頂いていること、支えられていることを強く実感し、奈良県立医科大学附属病院 看護部の一員であることに改めて誇りと感謝の念を抱きました。受賞するにあたり、本学附属病院から推薦を頂き、誠にありがとうございました。

我々3人は共に本学附属病院に勤務し、時代の流れと共に日々進歩し変化のある医療現場で、使命感を持って看護の質の向上や看護スタッフ育成などに取り組んでまいりました。看護学校を卒業してから、長い年月の看護の道を元気に働き続けることができたのも、家族の協力はもちろんのこと、上司や先輩方、同僚や友人、共に働く病院職員の支えのお陰であると深く感謝いたします。さらに日々の看護ケアの中で、患者さんからの一言からも頑張る力を与えて頂いていたからだと思います、改めて感謝しております。

これからもこの賞に恥じない様に、また励みにしながら、看護部理念である「人間を愛する心と、かけがえのない命を大切にします」のもと、安全で安心できる医療・看護提供が行えるように、日々努力し精進してまいりたいと思います。

今後とも、御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



第59回全国自治体病院学会 in 奈良 (2021年11月4日～5日)

緩和ケアリンクナース会 梅岡 京子 中濱 絢 松澤 未由紀
高宮 久美子 中村 由美

第59回全国自治体病院学会におきまして看護・看護教育分科会 優秀演題に推薦いただき、全国自治体病院協議会雑誌2022年4月号に掲載されました。演題名は「蓄積された“苦痛のスクリーニング”データを活用し、院内の緩和ケア供給体制を検討する取り組み」です。

苦痛のスクリーニングは2014年にがん診療連携拠点病院の要件として定められ、当院でも患者の潜在的苦痛を検出し、緩和ケアや必要な資源に繋げることを目的にスクリーニング実施に取り組んできました。現在はがん患者だけでなく一部の非がん患者にもスクリーニングが実施され、2020年度には3516件/年へと増加していました。そこで、これらのデータが活用できるデータベースを作成し、身体的・精神的苦痛の程度を入院・外来別、各診療科別に検討しました。その結果から、当院においては外来通院患者や心疾患患者、神経難病患者等の身体的・心理的苦痛への緩和ケアを充実させる必要があることを発表しました。

データベース作成にご協力くださった人事課 働き方改革推進係 川田耕平様、薬剤部 田村暁識先生、誠にありがとうございました。

今後も苦痛のスクリーニングデータを活用し、奈良県立医科大学附属病院の現状に沿った緩和ケア提供体制を検討していくことで患者ケアに還元できるよう努力していきたいと思ひます。



B棟7階 主任 宋 友榮

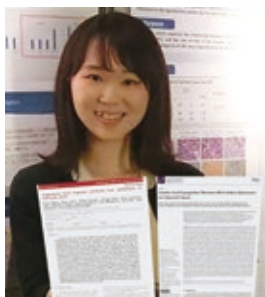
第59回全国自治体病院学会において「患者状態適応型パスシステム(PCAPS)の導入—精神科領域での取り組み—」のポスター発表を行い、優秀演題賞を受賞しました。2019年5月に病院情報システムの更新と同時に患者状態適応型パスシステム(PCAPS)が導入されたことから、精神科領域では初めての使用となりましたが、医師と協働し患者の状態に合わせた項目の選定やコメントを活用すること、PCAPSが時系列のツールであることにより、簡便でわかりやすい記録となり患者の精神状態の変化が詳細にわかるようになりました。本受賞にあたりご指導いただきました橋口部長、福山副部長をはじめ親身にご指導いただきましたスタッフの皆様へ深く感謝申し上げます。今回の受賞をきっかけに記録時間を短縮しながら良質な記録を残せるようにPCAPSの更なる発展に尽力していきたいと思ひます。



12.25 1.15 学生時代の研究結果を 2編の論文に出版しました

2020年度医学科卒業生 緒方 瑠衣子 (現 都立駒込病院)

私は、研究医養成コースに入学生、令和3年3月に卒業した後、現在は都立駒込病院で研修に励んでいます。在学中は、分子病理学教室で4年間にわたり研究を行ってきました。今回、その成果を2編の筆頭著者英文論文として発表することができました。いずれもリノール酸のがん細胞への作用を検討したもので、“Suppressive GLI2 fragment enhances liver metastasis in colorectal cancer.” (Oncotarget. Jan 15;13:122-135, 2022) では、リノール酸によるアシル化により GLI2 抑制性フラグメントが生成され、SOX17 発現が抑制された結果がんの幹細胞性が亢進することを示しています。“Linoleic acid upregulates microRNA-494 to induce quiescence in colorectal cancer.” (Int J Mol Sci. Dec 25;23 (1) :225, 2021) では、リノール酸により miR-494 の発現が亢進し、c-myc と PGC-1 α の発現抑制を介してがん細胞に静止期を誘導することを明らかにしました。これらの結果から、リノール酸は cancer cell dormancy を誘導することが考えられます。来年には臨床研修を終え、また研究キャリアに復帰することを楽しみにしています。



4.11 地域協創アクションプログラム WEBセミナーを実施しました

本学 MBT 研究所は日本経済団体連合会 (経団連) が企画する「地域協創アクションプログラム」に参画しています。「地域協創アクションプログラム」とは、地方創生の実現に向けた社会貢献活動のプランであり、本学は“医療・育児・介護関連”の分野において経団連とともに活動を実施する予定です。

4月11日 MBT が本プログラム全体の先頭を切って「医学的に正しいコロナ感染対策による MBT ビジネス活性化セミナー」を開催しました。本セミナーでは、本学細井理事長及び笠原感染症センター教授が、コロナ感染の根幹対策は「3密 (密閉、密接、密集) 回避」ではなく、医学的に正しい「3感染ルート (接触・飛沫・エアロゾル) 遮断」であること、そして“命の防衛”“企業の防衛”のために企業や団体に所属する個人に正しい感染対策教育が重要であることを、今まで積み上げてきた具体的実績を紹介しながら訴えました。

今後も WEB セミナーの開催を予定しており、地方創生の実現に努めてまいります。



WEB 講演の様子

4.19 在宅医療の提供モデル確立 に向け議論

奈良県立医科大学附属病院では4月1日より「在宅医療支援センター」が設立されました。MBT 研究所でも、在宅医療提供のためのモデル確立を目標に、MBT コンソーシアムと協力して日々情報収集や外部機関との検討会を行っています。

4月の MBT 研究所運営会議では、現場の医師からヒアリングした課題を共有した上で、その解決のためにできる MBT の成果の活用方法を相談するとともに目指す在宅医療モデルの方向性について議論しました。

今後は患者側のニーズのヒアリングにも着手し、さらに検討を進めていく予定です。



会議を主導する細井所長

5.16 長榮 MBT 特命教授 (前パナソニック 会長) が医学部生に特別講義

本年1月に MBT 研究所の特命教授に就任された前パナソニック会長の長榮周作氏が、5月16日日本学大講堂で、医学科1回生、看護学科4回生に「剣道と経営」というタイトルで講義を行いました。

当日は、講義に先立ち学長室で委嘱状授与式を行い、MBT 研究所スタッフと MBT の取り組みについて懇談をいたしました。

その後の講義では、長榮氏は62年の剣道歴、7段の達人で、剣道で究めた人生哲学と、49年の会社人生や経営から学んだ悟りを医学や看護人生の出発点に立つ学生に語り掛けられました。講義後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、長榮氏はその一つ一つに丁寧に回答されました。



講義をする長榮 MBT 特命教授



委嘱状授与式

5.24 第2回MBT映画祭開催に向け準備を進める

5月度のMBT研究所運営会議では、企業と現在進行中の連携活動や共同研究などに関する進捗報告とともに、難病に対する理解を深めていただくための活動である「MBT 難病克服キャンペーン」の活動内容について議論しました。

特に東京での開催が決定した第2回MBT映画祭については、第1回開催時の反省点をもとに、映画祭及び作品公募に関する周知方法、当日の全体スケジュール設定などについて細やかな調整が行われました。

映像作品を楽しみながらも難病についての理解を深めていただける機会とできるよう、引き続き検討を重ねてまいります。



MBT 難病克服キャンペーンの審議

5.30 『ねづくりや』でMBTセミナーを実施しました

東京の下町エリアの一角である根津は、古き良き街並みに人々の暮らしが息づいており、散策を楽しむビジターにも愛されている場所です。しかし、一歩入れば店主の高齢化や後継者問題によって街のにぎわいを生み出していた商店や食堂が店を閉じつつあります。

そこでMBT視座からコミュニティ・地元の方の健康意識向上を目的に、『ねづくりや』を展開する都市テクノ社と連携、地域コミュニティの再生を目指し、根津を代表する商店街であった根津観音通りにて様々なMBTサービスを開始しました。

まずは地域の方へMBT研究所 梅田副所長がセミナーを実施、活動目的などを共有し、健康ステーションとしてのデータ計測拠点としても活動を開始させました。

今後は得られたデータの活用、個々や地域への還元などを進めていきたいです。



『ねづくりや』の様子



セミナーを行うMBT研究所 梅田副所長

5.30 森MBT特命教授(DMG森精機取締役社長)が医学部生に特別講義

2020年9月にMBT特命教授に就任された森雅彦氏が、5月30日に就任後2回目となる特別講義を医学科、看護学科の1年生を対象に行いました。

冒頭、進行役の細井理事長が“医学を学び社会貢献する上でアントレプレナーシップは重要と考え、企業トップからお話を聴く機会を設けています”と特別講義の意義を説きました。

森MBT特命教授の講義では、「工作機械の世界とDMG森精機の経営ビジョン」と題して、世界に誇る最先端の工作機械の現状を説明され、複雑な立体形状からなる体内埋め込みインプラント部品の金属加工など、医療に関わる最先端の内容も紹介されました。

本講義の内容は以下の二次元バーコードから視聴できます。



講演をする森MBT特命教授

6.4 ぷれも薬局本店内の休憩所スペースにて「MBTぷれもカフェ」をオープンしました

6月4日よりぷれも薬局本店内の休憩所スペースにて「MBTぷれもカフェ」をオープンしました。

「人とのつながりが健康を増進する」という考えのもと、本学の学生有志がお菓子の調剤を待っているお客様と健康や日常生活についての悩みから世間話まで様々なお話をして交流するという取組を行なっています。実際にお話しをさせていただいた方の中には、「元気をもらえた」「いい時間になった」と言ってくださる方も多く、学生もやりがいを感じています。また学生にとっても地域住民の皆様と交流できることは大変貴重な経験であると考え、今後も「MBTぷれもカフェ」が訪れるすべての人にとって良い空間になることを目指しています。

毎週土曜日、医学生スタッフが店内におりますので、少しでも興味を持ってくださった方はぜひお越しください。



お客様と会話する本学医学生スタッフ



6.7

医療法人梅華会理事長梅岡比俊氏がMBT 特命講師に就任されました

医療法人梅華会の梅岡比俊理事長が本学の MBT 特命講師に就任されました。MBT 特命講師の称号は、産業と医学を結びつけ、イノベーションを起こす実力又は実績があると認められた方に授与しているものです。

梅岡先生は本学出身で、多くのクリニックを開業した医療経営者であるとともに、保育園はじめ多くの社会貢献活動も推進されています。

6月7日に学長室で MBT 特命講師委嘱状授与式を行い、その後 MBT スタッフと今後の MBT 活動について語り合いました。また、13日にはオンラインで本学学生に「医師の視点から考える起業家精神」と題して特別講義を行いました。



委嘱状授与式

6.11

MBT ウェルシア薬局健康ステーションを開催しました

～いつまでも元気で明るい未来のために～ウェルシア薬局 榎原市中曾司店「ウェルカフェ」にて健康ステーションが開催されました（隔月第二土曜日）

梅田副所長と MBT 研究所スタッフが様々な機器でカラダ・肌の状態などを測定、日頃から健康づくりを意識し生涯現役で自分らしく健康的な暮らしができるよう一人ひとりにあった生活アドバイス等を提供しました。

予約制で毎回 17 名程度の参加者からは、健康意識が高まったと大変好評でした。

MBT は今後も健康とまちづくりをテーマに地域コミュニティを深め、積極的に展開を図っていきます。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



健康アドバイスをする梅田副所長



健康ステーションの様子

6.11

大学院看護学研究科のオープンキャンパス 2022 を開催しました

大学院看護学研究科のオープンキャンパスを 6 月 11 日（土）に開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、3 年ぶりの対面開催となりましたが、事前申込制とし、感染対策を講じた上で、28 名にご参加いただき、大盛況に終わることができました。

プログラムとしては、「看護学研究科長の挨拶」、「コースの概要説明」、「個別相談会」、「先輩との座談会」等を行いました。

参加者からは、「大学院での生活や勉強法など具体的な話を聞くことができ、入学後のイメージがしやすかった。」や「興味深い内容がたくさんあり、助産についてより学びたいと思った。」などの感想が聞かれました。

令和 5 年度の入学試験は、8 月 22 日（月）（二次募集：12 月 1 日（木）*）に実施されます。

*一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。



川上看護学研究科長の挨拶

6.21

モルミル株式会社の設立

未来基礎医学 准教授 森 英一朗

この度、5 番目の奈良医大発ベンチャーとして、「モルミル株式会社 (molmir, Inc.)」を設立いたしました。「molmir (モルミル)」は分子 (molecule) を見る (miru) という意味を含めた造語です。原子レベルで分子の動きを捉えることで治療薬の開発を目指します。ALS (筋萎縮性側索硬化症) を含む難病の治療法を開発し、日本から世界に創薬の新たな可能性を提示します。そして、ALS などの神経難病に留まらず、様々な疾患の治療法開発に挑んでいきます。日本のアカデミア研究者で力を合わせて、アカデミアの研究成果を社会実装していきます。



6.21

V-iClinix 講座第 8 回運営委員会を開催しました

中谷医工計測技術振興財団の長期大型研究助成を活用して設置した寄附講座「V-iClinix 講座（生体 5 次元インフォマティクス国際統合ハブ）」の運営委員会を開催しました。運営委員会は、年 2 回研究成果の確認を行っております。今回の委員会は、昨年度と同様 Web での報告となりました。現在取り組んでいる研究の進捗状況や今後の計画をご報告いただきました。10 月には中間報告会が開催され、佐藤教授にご指導いただいている本学学生にも発表の場があるとのこと。今後、本講座の集大成が楽しみとなる内容となりました。



運営委員会の様子

6.21

大阪・関西万博に関する意見交換を行いました

現在、2025 年開催の大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現とその先の理想社会を共創する取り組み「TEAM EXPO 2025」として、関西各地で万博と連携したイベントや企画が進行しています。

本学は『TEAM EXPO 2025』共創パートナーである一般社団法人夢洲新産業・都市創造機構に参画しており、6 月の MBT 研究所運営会議では、連携機関を通じて収集した情報や万博における MBT の展開構想の全体共有が行われました。

今後も、万博を盛り上げる一助となる形で、本学のこれまでの研究・活動成果を社会に還元していただけるよう展開構想を進めてまいります。



大阪・関西万博との連携を協議

6.22

新型コロナウイルス感染症対策記録集 Web サイトを公開しました

2020 年 1 月からこれまでの軌跡として、新型コロナウイルス感染症対策本部を中心に、病院部会、教育・研究部会、先端研究部会、記録部会がそれぞれどのような取組を行ってきたか、また、本学の感染症専門医や感染管理認定看護師等の病院外における取組等を、記録集としてとりまとめました。

今後も様々な困難が続くことが予想されますが、本学に関わるすべての人々が一丸となって取り組んだ経験は、大きな財産となって今に活かされています。記録集を通じて、多くの皆様に本学の取組を知っていただき、今後の対策に活かしていただければ幸いです。



奈良県立医科大学
新型コロナウイルス感染症対策記録集
<https://covid19report.naramed-u.ac.jp>



6.26

エコマミ講座で MBT 講演を行いました

エコマミ講座とは、香芝市と広陵町にまたがる真美ヶ丘ニュータウンにあるエコール・マミにおいて、地域住民の生涯学習、文化的好奇心の探求等に寄与するため行政が開催している市民向け公開講座です。

この第 1 回目の公開講座で、本学 MBT 研究所梅田副所長が「ヘルスケア×MBT Society5.0 時代の健康見守り」と題して講演を行いました。平均寿命の伸長と高齢化に伴い日本の医療費は増加し続けており、梅田副所長はこれらの課題解決には情報提供方法の構築、健康志向への誘導、効率的な予防サービスの提供が必要であると訴え、現在取り組んでいる各種センサ、IT を活かした新たなヘルスケアプラットフォームの紹介を行い、参加者から関心を集めていました。

MBT は今後も地域コミュニティ形成の一助となるため、公開講座等に積極的に参加していきます。



講演する梅田副所長

6.29
7.7

短冊に思いを込めて～病院北玄関の七夕飾り～

七夕とは五節句の一つで、天の川に隔てられた彦星と織姫が七月七日の夜、年に一度だけ会うという中国の伝説が由来です。日本では織姫が機織りの上手な働き者だったことから、手芸や裁縫の上達を願う風習が原型となり、短冊に願いごとを書いて、笹竹に飾り付ける行事になりました。

附属病院では、北玄関に6/29～7/7まで笹竹と短冊を設置し、患者さんやご家族の方に、願い事を書いて飾っていただきました。面会を制限している影響もあり短冊の数は例年よりはやや少なかったように思えますが、「お母さんの病気が早く治りますように」、「元気になって普通の生活に戻れますように」、「ようやく退院できました。医療スタッフさんに感謝です。」など、様々な思いが短冊に込められていました。

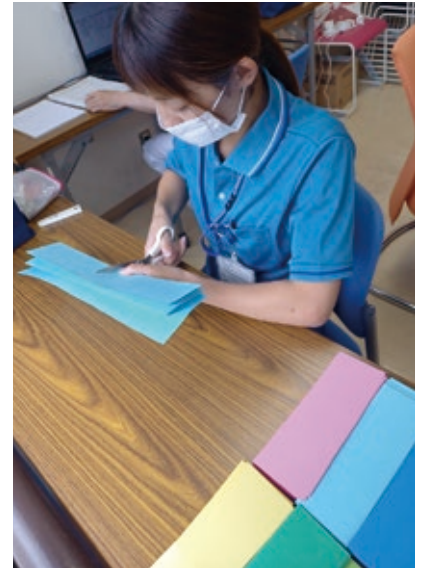
患者さんの短冊と障害者雇用推進係の皆さんが作ってくれた飾りで、笹が綺麗になることによって、院内の雰囲気も明るくなった気がしました。

七夕が終わったあとの笹竹は、市内春日神社に奉納し、祈願成就のご祈念をしていただきました。

「早く、新型コロナウイルス感染症のない日がきますように・・・」



短冊でいっぱいになった笹竹



短冊を準備する職員

7.1
8.31

公的研究費の適正使用に係る 研修会を開催しています

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、公的研究費の適正使用に係る研修会及び経理事務等説明会は Web 上の動画配信での開催としました。今年度は、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」の改正内容を中心に説明しました。

ガイドライン改正に伴い、公的研究費の適正な執行の意識を向上させるための制度として、啓発活動を四半期ごとに実施することも説明しています。

なお、各所属には、コンプライアンス教育を徹底するため「公的研究費不正防止計画実施状況報告書」や「誓約書」の提出も求めています。

公的研究費の適正使用に係る研修会 及び経理事務等説明会

1. 公的研究費に係る不正事例について
2. 不正防止計画について
3. 安全保障輸出管理概要について
4. 科研費の使用ルールについて
5. 経理事務ガイドブックについて
6. 納品検収センターについて

研究推進課



7.4

矢野 MBT 特命教授 (ダイソー創業者) が医学部生に特別講義

本学 MBT 特命教授であるダイソー株式会社創業者の矢野博文氏による公開講義を開催しました。

2 回目となる今回の講義は、本学の学生(1 年生)に向けての特別講義を web 配信により公開いたしました。

「時代は変わった」というタイトルの講演では、現在の少子高齢者社会の中で自分自身、厳しい国に生まれてきていることを忘れてはならない、今日までの成長のなかで、両親やご先祖に感謝することの大切さについて語られました。

また、アメリカのバッファローに例え、厳しい時代ではあるが、群れをリードするものとなってほしいと激励の言葉を送られました。

学生からも多くの熱心な質問がありました。

この講義の様子は、下記二次元バーコードから視聴できます。



講演をする矢野 MBT 特命教授

Winner Report

12.4

日本口腔科学会近畿地方会において新人賞を受賞しました

口腔外科学 医員 財前 美希

2021年12月4日にWeb開催された日本口腔科学会近畿地方会において「血友病患者における抜歯後出血のリスク因子についての検討」を発表し、新人賞を受賞しました。本研究では血友病患者の抜歯において、保護床の不使用により後出血のリスクが5倍になることが判明しました。この賞をいただいたのは、桐田教授、柳生先生をはじめ、親身にご指導いただいた先生方のおかげであり、心よりお礼申し上げます。

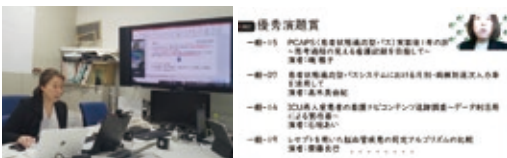


3.12

第6回日本臨床知識学会学術集会(一般演題)で優秀賞を受賞しました

看護部 情報管理(医療情報部兼務)師長 高木 美由紀

令和4年3月12日にWebで開催された第6回日本臨床知識学会学術集会(一般演題)で優秀賞を受賞しました。演題は『患者状態適応型パスシステムにおける月別・病棟別逐次入力率を活用して』です。医療の質の向上に資する看護記録について逐次入力率をもとに検討した内容です。ご指導頂いた地域医療学講座の周藤先生、医療情報部の玉本先生はじめ、関係部門の皆様にご場をお借りして心より感謝申し上げます。



3.13

第40回日本口腔腫瘍学会学術大会で優秀ポスター賞を受賞しました

口腔外科学 准教授 山川延宏

2月14日～3月13日にWEB開催された第40回日本口腔腫瘍学会学術大会において「再発または遠隔転移を有する口腔癌におけるニボルマブの安全性と有効性に関する多施設共同研究」をポスター発表し優秀ポスター賞を受賞しました。頭頸部領域で最初に承認された免疫チェックポイント阻害薬であるニボルマブに関する報告を口腔癌に注目して発表させていただきました。単施設ではなかなか症例数を集めることが難しいので、多くの施設からデータを出していただきまとめさせていただきました。ご協力いただいた多くの先生方に感謝申し上げます。

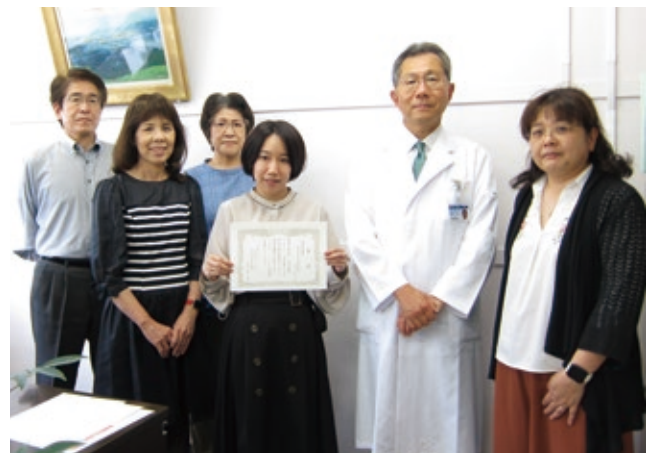


3.19

第16回医療マネジメント学会奈良支部において優秀演題賞を受賞しました

地域医療連携室 契約専門職員 中野 幸恵

3月19日に開催された「第16回医療マネジメント学会奈良支部」学術集会において地域医療連携室での取組み「電子カルテ連携ソフトウェアによる適切な返書管理の運用」について、中野幸恵さんが発表し、優秀演題賞を受賞いたしました。年間約20,000人の初診紹介患者をお受けする中で、返書管理は大きな課題であり、システム構築やその運用には多くの調整や協力が必要でした。システム導入により返書率が大幅に改善されたことは当院にとって大きな成果であり、全ての診療科のご理解とご協力に感謝します。



3.20

「臨床放射線」誌 2021 年 (第 66 巻) にて臨放症例賞を受賞しました

放射線診断・IVR学 医員 山田 彩

この度、「臨床放射線」誌 2021 年 (第 66 巻) にて臨放症例賞を受賞させていただきました。題名は「CT が診断に有用であった帯状疱疹罹患後の偽性腹壁ヘルニアの 1 例」です。日常臨床で頻度の高い帯状疱疹後に見られる腹壁麻痺は、腹壁ヘルニアと鑑別を要するため画像所見を中心に報告致しました。

このような賞を頂くことができ大変嬉しく思っております。ご指導頂きました山内哲司先生、並びに奈良県西和医療センター放射線科の武輪恵先生に心より感謝申し上げます。



4.15

日本小児科学会賞を受賞しました

名誉教授 吉岡 章

「血友病 A および血友病 B の病因・病態の解明と新規止血治療薬の開発」で 2022 年日本小児科学会賞を受賞いたしました。初の受章者は「川崎病」の川崎富作先生です (平成 18 年)。第 125 回学術集会 (4 月 15 日、福島県郡山市) で授賞式が行われ、受賞記念講演を終えました。講演は、70 年に及び小児科学教室の血友病に関する膨大な業績を詳細にレビューするよい機会ともなりました。血友病の研究と診療の道は決して平坦なものではなく、正に、“血”の滲むような悪戦苦闘とそれを克服する意欲と智恵と結束があって、今回の高い評価に繋がりました。本受賞は、私はもとより小児科学教室・奈良医大にとりまして大きな栄誉であり、誇りであります。教室の多くの先輩・後輩、内外の多くの研究者・医師・企業の方々のご指導とご支援、そして、患者さんのご協力があつたなればこそと、ここに深く感謝の意を表します。



日本小児科学会会長 岡 明先生とともに

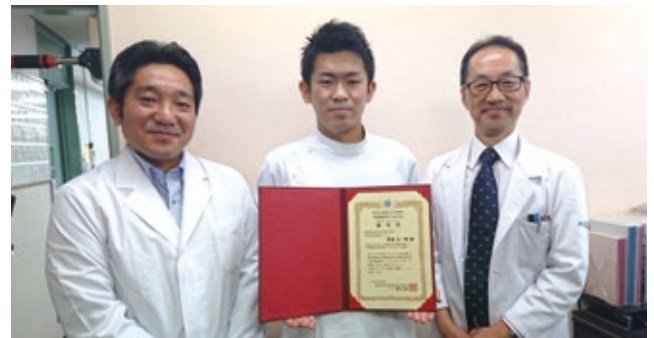
4.23

第 62 回日本呼吸器学会学術講演会「呼吸器病学ことはじめ」にて優秀賞を受賞しました

臨床研修医 齊藤 正一郎

この度、4 月 22 ~ 24 日に開催された第 62 回日本呼吸器学会学術講演会の若手医師を対象とした企画「呼吸器病学ことはじめ」において、優秀賞を受賞致しました。演題は「Angiotensin-like 4 は肺線維症の病態を制御する一肺線維症患者肺検体とマウスモデルでの解析」であり、免疫学講座にて学生時代より取り組んできたテーマです。学生時代からご指導頂きました伊藤利洋教授 (免疫学)、多くの貴重なアドバイスを頂戴した室繁郎教授 (呼吸器内科学) をはじめ、両講座のスタッフの方々への感謝の念に堪えません。皆様のご指導なくしてこの受賞はありませんでした。本当に感謝申し上げます。

肺線維症をはじめ多くの難病で苦しむ患者様の一助となれるよう、そして医学の発展にも寄与できる physician scientist を目指し、これからも日々邁進致す所存です。



5.10

第 81 回日本医学放射線学会総会にて教育展示優秀賞を受賞しました

放射線診断・IVR学 医員 山田 彩

この度、4 月 14 ~ 17 日に開催された第 81 回日本医学放射線学会総会にて教育展示優秀賞を受賞させていただきました。演題名は「肺抗酸菌感染症の画像所見：結核と非結核性抗酸菌症」です。肺結核や非結核性抗酸菌症が呈する多彩な画像所見に関して報告致しました。

このような賞を頂くことができ大変光栄です。ご指導頂きました奈良県総合医療センター放射線科の西本優子先生、並びに奈良県立医科大学放射線診断・IVR学講座の太地良佑先生に心より感謝申し上げます。

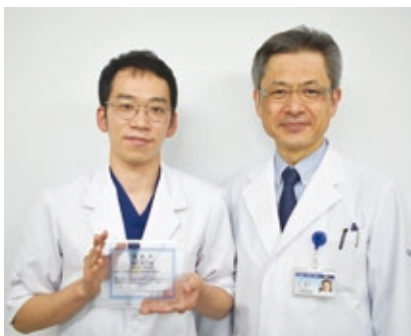


Winner Report

4.16 第122回日本外科学会定期学術集会 研修医部門で優秀演題賞を受賞しました

消化器・総合外科学 医員 村上 紘一

4月14～16日に開催された第122回日本外科学会定期学術集会において研修医部門：優秀演題賞を受賞させて頂きました。演題「低異型度虫垂粘液性腫瘍の術前画像診断」は、術前診断が困難な虫垂癌に関して、特に低異型度虫垂粘液性腫瘍に着目して画像的特徴を検討した報告であります。庄雅之教授、小山文一先生をはじめ、御指導を賜りました先生方に厚く御礼申し上げます。本受賞を糧として、今後も精進していく所存です。



臨床研修医 琴谷 美咲

4月14日～16日に開催された第122回日本外科学会定期学術集会において研修医部門で優秀演題賞を受賞しました。受賞演題は「外傷性脾損傷に対して脾中央切除による脾機能温存手術を施行した1例」で、術後の重大な合併症である脾液瘻予防に有用な術式について検討した症例報告です。庄雅之教授をはじめ御指導を賜りました先生方に厚く御礼申し上げます。今回の受賞を励みに今後も精進いたします。



5.10 第81回日本医学放射線学会総会にてCyPos賞としてBronze Medalを受賞しました

放射線診断・IVR学 医員 亀田 有紗

この度、2022年4月14日～17日に開催されました第81回日本医学放射線学会総会にてCyPos賞としてBronze Medalを受賞させて頂きました。演題名は「VI-RADSによる特殊型膀胱癌の筋層浸潤の初期検討」です。特殊型膀胱癌のMR画像の特徴を検討しました。

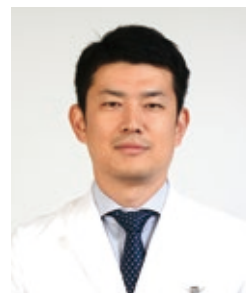
このような賞をいただくことができ、大変嬉しく思います。ご指導いただきました丸上永晃先生、立入哲也先生を始めとした先生方に心より御礼申し上げます。



5.14 医学科同窓会 海外留学助成金 厳檀学術奨励賞を受賞しました

消化器・総合外科学 非常勤医師 中村 広太

この度、厳檀学術奨励賞を受賞させて頂き、大変嬉しく思っております。現在、私はアメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルス郡モノロピアにありますCity of Hope National Medical Centerに留学しており、血液中の遺伝子情報から癌の状態等を予測する手段の確立を目的とした研究を行なっています。将来の臨床に役立つ様な成果を目指し、今後も研究活動を続けていく所存です。今後とも何卒宜しくお願い致します。



5.15 第38回奈良県医学検査学会において会長賞を受賞しました

中央臨床検査部 輸血部 技師 田中 宏明

5月15日に開催された第38回奈良県医学検査学会において、「当院における塗抹検査結果に基づく選択分離培地の追加についての検証」という演題を発表し、会長賞を受賞させて頂きました。検査室の運用の効果を検証し、改善の必要性が示唆されました。今後も、患者さんのためになる臨床検査を提供できるよう精進して参ります。最後になりましたが、この場を借りて指導していただいた山崎部長、諸先輩方に深く感謝申し上げます。



5.15

第7回公益社団法人日本女医会 学術研究助成 溝口昌子賞を受賞しました

皮膚科学 講師 宮川 史

5月15日に公益社団法人日本女医会より学術研究助成 溝口昌子賞を賜りました。本研究助成は聖マリアンナ医科大学皮膚科名誉教授であられた故溝口昌子先生のご意志により寄附された基金から女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的として設立されたものです。これまで長年にわたり積み上げてきた研究業績と研究活動を、特に優れていると評価していただき受賞に至りました。大学院、留学と繋いできた自己免疫に関する基礎研究を本学でも継続させて頂き、さらに重症薬疹に関する臨床研究に従事する機会も与えて頂いた浅田教授に心から感謝申し上げます。



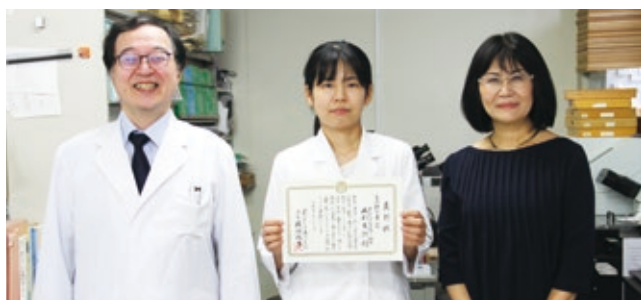
5.26

国際ソロプチミスト奈良ーあすか 女性研究者賞を受賞しました

皮膚科学 助教 西村 友紀

国際ソロプチミストは、職業に就いている女性の世界的な組織で、女性と女兒の生活向上のために顕彰事業や援助事業を実施しています。ソロプチミスト日本財団女性研究者賞は、様々な分野で将来性のある研究を日本国内で行なっている優秀な女性に対し、研究費を支援する目的で創設された賞です。本学からは、奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞を受賞した研究者を毎年推薦しています。

この度、皮膚科学講座の浅田秀夫教授ならびに女性研究者・医師支援センターから推薦を受けた西村友紀先生が、「薬剤性過敏症候群にヒトヘルペスウイルス6の持続感染を生じた症例の検討」という研究テーマで、国際ソロプチミスト奈良ーあすか女性研究者賞を受賞されました。国際ソロプチミスト奈良ーあすかの牧浦敬子会長、日本財団委員会の甲村誠子委員長から、育児と両立しながら研究、臨床、教育に熱心に取り組まれていることが高く評価されました。女性研究者・医師支援センターでは、今後も優秀な女性研究者の活躍を支援していきたいと思ひます。

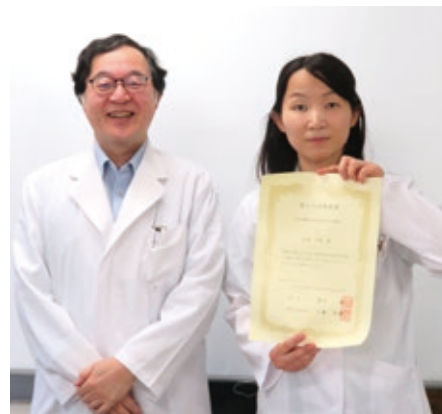


5.21

日本超音波医学会第95回学術 集会で奨励賞を受賞しました

皮膚科学 助教 正島 千夏

この度、日本超音波医学会第95回学術集會にて奨励賞を受賞しました。演題名は「皮下腫瘍の超音波所見の検討」です。奨励賞は超音波医学の発展に寄与する活躍をしている研究者に授与される賞であり、受賞を励みに今後も皮膚超音波領域での臨床研究に邁進する所存です。受賞にあたり、皮膚科学教室浅田秀夫教授、総合画像診断センターの平井都始子病院教授、これまでご指導いただきました多くの先生方に感謝申し上げます。



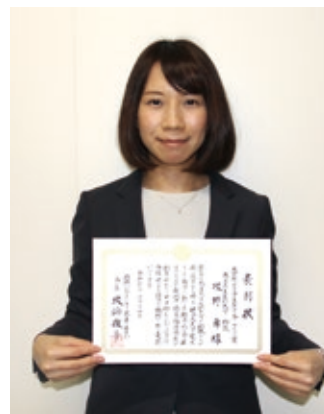
5.26

国際ソロプチミスト奈良ーあすか大学院 女子学生奨学金クラブ賞を受賞しました

生化学 助教 牧野 舞 (医学研究科 博士課程4年)

国際ソロプチミストアメリカ日本中央リジョンでは、リジョン区域限界内に在住する研究・人材ともに優秀な大学院女子学生を対象として、将来社会に貢献し得る人材を育成するための奨学金を設置しています。本学では、女性研究者・医師支援センターが主体となり、毎年1名の候補者を学内で選考しています。

この度、生化学講座の高沢伸教授から推薦を受けた牧野舞先生が、「 β 細胞における2型リアノジン受容体の組織特異的スプライスバリエーションの存在意義の解明」という研究テーマで、国際ソロプチミスト奈良ーあすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました。国際ソロプチミスト奈良ーあすかの牧浦敬子会長、アワード委員会の吉田知子委員長からは、医学教育に従事する傍ら学業や研究にも熱心に取り組まれていると高い評価をいただきました。女性研究者・医師支援センターでは、今後も優秀な大学院女子学生を応援していきたいと思ひます。



6.4 2022 APSCVIR (アジアオセアニア IVR 学会) で Gold Medal を受賞しました

奈良県立医科大学附属病院 病院長 吉川 公彦

6月4～6日、神戸で山門 亨一郎先生(兵庫医大 放射線科教授)主催の下、第51回日本IVR学会(JSIR)と合同で開催された第16回アジアオセアニアIVR学会(APSCVIR; Asia Pacific Society of Cardiovascular and Interventional Radiology)で、Gold Medalを受賞しましたので、ご報告致します。

APSCVIRは1993年に、欧米の学会と連携して、アジアオセアニア地区のIVRの普及と発展を目的に発足したIVRの学会で、2年に1回、アジアオセアニア各国で開催され、今年で16回目となります。日本は技術講習会やWebセミナーを積極的に開催し、リーダー的役割をなしています。

Gold Medal賞は2010年に制定され、アジア・オセアニアのIVR(画像下治療)の教育、基礎研究、臨床研究、臨床活動など学会の発展に寄与した医師が各国から推薦され、理事会の選挙で2～3名が選出されます。

今回はBien Soo Tan先生(シンガポール)、Andrew Holden先生(ニュージーランド)含めて3名の受賞がありましたが、コロナの影響で表彰式は私のみオンサイトで参加し、他の2名の先生はリモート参加でした。Gold Medal受賞にあたり、推薦いただいた学会理事の先生方ならびに共にIVR発展のために協力いただいた奈良医大IVRチームの皆さまにお礼を申し上げます。



左から Bien Soo Tan 先生、Andrew Holden 先生、筆者



会長の山門先生より Gold Medal を授与される

日本の過去の Gold Medal 受賞者は平松京一先生(元慶應大学教授)、打田日出夫先生(元奈良医大教授)、山田龍作先生(元大阪市大教授)、松井 修先生(元金沢大学教授)、岡崎正敏先生(元福岡大学教授)、荒井保明先生(国立がん研究センター)の6名であり、今回私が7人目となります。Gold MedalのデザインはX線管球にセルジンガー針、ガイドワイヤー、血管拡張用カテーテルの3つが斜めに並んでおり、その背景はアジア太平洋の地図がデザインされています。



Gold Medal

IVRは低侵襲性治療として今後益々発展することが予想されますが、奈良医大はそのルーツであり、2014年にはIVRセンターが設立され、施行件数は年間約2000例で日本でも屈指の症例数を誇っています。研究面では2018年IVR研究センターが設立され、動物用DSA、CTを駆使して画像診断、IVRに関する基礎的実験を行い、新規IVR治療のメカニズムの解明と革新的なIVRデバイス開発に取り組んでおり、産学連携による新規デバイスの臨床応用、国内外への発信も進んでいます。

2022年2月より放射線診断・IVR学講座に田中利洋新教授が着任されました。今後も本講座が臨床現場において患者さんと各科の先生と密に接して、医の心に基づいた医学を実践する質の高い放射線科医を育成するとともに、臨床各科との連携のもと、精度の高い画像診断・IVRの実践に努めていく講座として、発展することを願っております。

今後は2022年4月より2期目を拝命しました奈良県立医科大学附属病院長として、細井裕司理事長・学長先生のご指導の下、大学と密に連携して附属病院の運営を行うとともに、本学が今後も益々発展し、存在感のある大学として発展できるよう努力する所存ですので、教職員ならびに同窓の皆さまにおかれましては、より一層のご支援・ご指導を賜りますよう、何卒、宜しく願い申し上げます。



女性研究者学術研究奨励賞は、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成と男女共同参画の促進等に資することを目的に、平成23年度に創設された賞です。

第11回の受賞者は小児科学講座の古川晶子助教で、授賞式にて賞状、記念品の盾及び研究奨励金を授与しました。授賞式後、古川晶子先生による「血友病Aに関する基礎的研究および治療有効性評価法の確立」と題した講演が行われました。授賞式には小児科学講座の野上恵嗣教授もご出席され、授賞式の様子はオンラインで広く配信されました。



横断的共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました

本学の研究の一層の推進を目指して行われている横断的共同研究助成事業・若手研究者研究助成事業について、今年度は下記の研究課題が採択されました。

本学の将来像に定めた横断的・共同研究を推進するための横断的共同研究助成事業には、6件の応募があり、放射線診断・IVR学講座 岩越助教が研究代表者である共同研究が採択され、500万円が助成されます。

また、若手研究者研究助成事業には18件の応募(うち1名資格対象外)があり、下記の11名が採択され、それぞれ45万円が助成されます。

■ 横断的共同研究助成事業 採択者

所属名	職	氏名	研究課題名	共同研究者
放射線診断・IVR学	助教	岩越 真一	腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿入術後の、大動脈瘤増大に対する新規治療法の開発；動脈瘤内血栓における凝固線溶状態を解明し、改善させる治療法	①放射線診断・IVR学 教授 田中利洋 ②血栓止血先端医学 准教授 辰巳公平 ③血栓止血医薬生物学 助教 坂田飛鳥 ④胸部・心臓血管外科学 助教 廣瀬友亮

■ 若手研究者研究助成事業 採択者

所属名	職	氏名	研究課題名
皮膚科学	助教	光井 康博	ヒトヘルペスウイルス6 (HHV-6) entry機構に着目した、移植片対宿主病 (GVHD) の早期診断・重症化予測マーカーの発見と治療法の開発
消化器・総合外科学	医員	土井 俊介	T細胞不活化経路HVEMを標的とした肝内胆管癌に対する新規治療戦略の開発
呼吸器内科学	診療助教	谷村 和哉	B細胞に着目したCOPD増悪における炎症制御障害病態の検証
小児科学(地域医療学講座)	特任助教	大前 隆志	ネフローゼ候群を発症した成人患者における包括的血液凝固解析の前向きコホート研究
未来基礎医学	特任助教	五十棲 規嘉	構造ドメインによる生物学的相分離の制御機構の解明
消化器・総合外科学	医員	辻本 成範	APC11発現解析による消化管癌進展機序の包括的解明および新規治療戦略の開発
脳神経外科学	助教	古田 隆徳	虚血性ポストコンディショニング神経保護作用におけるミトコンドリアカルシウムユニポーター動態の解明
糖尿病・内分泌内科学	助教	中島 拓紀	大規模レセプトデータを用いた副腎腫瘍の骨折リスクと健康寿命への影響の解明
放射線診断・IVR学	助教	前田 新作	ナノ複合材料インジェクタブルゲルを用いた膵島細胞の経皮的膵実質内移植の開発
脳神経内科学	医員	山岡 美奈子	Danon病をはじめとする神経筋疾患におけるオートファージ破綻の機序解明
消化器・総合外科学	医員	巽 孝成	CD200を標的とした難治性食道癌における治療抵抗性獲得機構の解明

Winner Report

6.6 第29回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

今回の受賞者は精神医学の山室和彦学内講師、整形外科の塚本真治助教の2名で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。

表彰式後、山室学内講師が「幼若期逆境体験の神経基盤の解明に向けた研究」、塚本助教が「中間悪性度骨腫瘍に対する免疫チェックポイント分子発現を基盤とした新規治療戦略」と題して講演が行われました。



山室学内講師



塚本助教

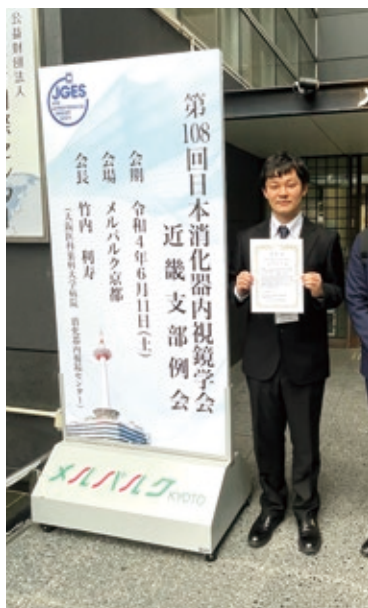
この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。毎年、各所属に応募要項を案内していますので、若手教員の積極的な応募をお待ちしています。



6.11 第108回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会において Young Endoscopist Award を受賞しました

消化器内科学 後期研修医 太田 浩平

第108回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会におきまして、Young Endoscopist Award を受賞いたしました。受賞演題は「Blue rubber bleb nevus syndrome による小腸血管腫からの出血に対しエトキシスクレロールにて治療した一例」です。Blue rubber bleb nevus syndrome に対する治療法をまとめ、エトキシスクレロールでの治療の有有用性・安全性を報告いたしました。今回の発表に際し多くのご指導をいただきました吉治教授ならびに瓦谷講師、竹田先生をはじめ、多くの先生方に厚く御礼申し上げます。本受賞を励みに、今後の日常診療・研究になお一層精進してまいります。



6.14 The 15th Asian Congress on Oral & Maxillofacial Surgery で Certificate of Award-Poster Presentation を受賞しました

口腔外科学 講師 柳生 貴裕

The 15th Asian Congress on Oral & Maxillofacial Surgery (26-28 May, 2022, Seoul, Korea) にて Certificate of Award-Poster Presentation を受賞しました。演題は Local delivery of basic fibroblast growth factor for the prevention of medication-related osteonecrosis of the jaw です。昨今患者数が急増している薬剤関連顎骨壊死に対するトラフェルミン (bFGF) の予防効果について報告しました。今回の受賞を励みに、今後はトランスレーショナル・リサーチの実施を目指して研究を継続して参ります。この場をお借りし、平素よりご指導賜る桐田忠昭教授、大学院生として本研究を共に遂行した今田光彦先生、口腔外科学教室の皆様へ深謝致します。

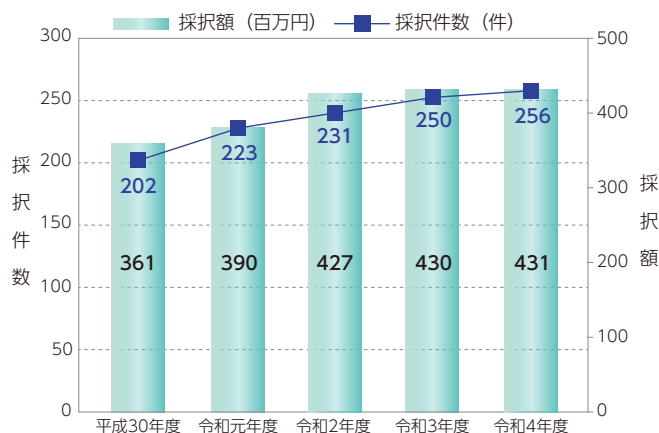


令和4年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

令和4年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金（文部科学省、独立行政法人日本学術振興会））が決定しました。令和4年5月1日現在の状況は下記のとおりです。

来年度においても積極的な応募申請をよろしくお願い致します。

	採択件数 (件)	採択額 (千円)	経費	
			直接経費	間接経費
令和4年度	256	431,160	332,100	99,060
令和3年度	250	429,840	330,900	98,940
令和2年度	231	426,980	328,700	98,280
令和元年度	223	390,040	300,280	89,760
平成30年度	202	360,620	277,400	83,220



令和4年度 文部科学省科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）一覧

研究種目	教室名 (R4.5.1)	職名 (R4.5.1)	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (A)	公衆衛生学	教授	今村 知明	データ科学・疫学・臨床医学の融合による日本の保険診療情報 (NDB) の全解析	2018 ~ 2022
基盤研究 (A)	発生・再生医学	教授	栗本 一基	組織学と複合した単一細胞 DNA メチル化解析法による原始卵巣淘汰過程の解明	2020 ~ 2024
基盤研究 (A)	血栓止血研究センター	センター長	嶋 緑倫	血友病 A 治療を目指したユニバーサル細胞療法の創出	2020 ~ 2023
基盤研究 (A)	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	疫学と臨床医学、情報工学の融合によるデータベース医学の標準的疾患定義の開発	2020 ~ 2024
基盤研究 (B)	第一解剖学	教授	西 真弓	新規行動解析システムによる幼少期生育環境が脳及び行動に及ぼす影響の神経基盤の解明	2019 ~ 2022
基盤研究 (B)	消化器・総合外科学	教授	庄 雅之	難治性消化器癌に対する治療抵抗性克服による新規集学的免疫治療戦略の開発	2019 ~ 2022
基盤研究 (B)	麻酔科学	教授	川口 昌彦	術後生活機能障害の5年間追跡調査とプレハビリテーションプログラムの有効性評価	2019 ~ 2023
基盤研究 (B)	疫学・予防医学	特任准教授	大林 賢史	光曝露が糖尿病・心血管疾患・がん・認知症の発症および予後に及ぼす中長期影響	2019 ~ 2023
基盤研究 (B)	在宅看護学	教授	小竹 久美子	喉頭全摘出者の QOL 向上へつなげる看護体制の構築：RCT による縦断的介入	2019 ~ 2022
基盤研究 (B)	第二生理学	教授	堀江 恭二	全能性状態の誘導による人工的動物個体作製法の開発	2020 ~ 2023
基盤研究 (B)	未来基礎医学	准教授	森 英一朗	生物学的相分離の制御機構	2020 ~ 2022
基盤研究 (B)	精神医学	准教授	牧之段 学	小児期栄養環境が形づくる髄鞘構造とその精神症状への効果の検討	2020 ~ 2022
基盤研究 (B)	発生・再生医学	准教授	小林 久人	ゲノム刷り込み機構の機能的多様性を明らかにする種間インプリントーム比較解析	2021 ~ 2024
基盤研究 (B)	皮膚科学	准教授	新熊 悟	復帰変異モザイクモデルマウスを用いた表皮細胞の増殖優位性獲得機序の解明	2021 ~ 2023
基盤研究 (B)	胸部・心血管外科学	病院教授	澤端 章好	末梢血循環癌細胞 (CTC) の Liquid biopsy 標的としての含意探索	2021 ~ 2023
基盤研究 (B)	化学	教授	酒井 宏水	人工赤血球の一酸化炭素 / 酸素運搬機能の最適化による出血性ショック蘇生効果の向上	2021 ~ 2023
基盤研究 (B)	循環器内科学	博士研究員	斎藤 能彦	収縮性の保持された心不全の発症・進展機序の解明に関する研究	2022 ~ 2024
基盤研究 (B)	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	医療・介護・健診連結ビッグデータを用いた内分泌代謝疾患のリアルワールド解析	2022 ~ 2026
新学術領域研究 (研究領域提案型)	発生・再生医学	教授	栗本 一基	組織学的情報とリンクした単一細胞遺伝子発現プロファイル動態の解明	2018 ~ 2022
新学術領域研究 (研究領域提案型)	第二生理学	助教	吉田 純子	多能性幹細胞の分化制御機構の情報物理学的解析	2022 ~ 2023
学術変革領域研究 (A)	精神医学	学内講師	山室 和彦	前頭前野局所回路の数値モデル構築によるニューロモデュレーション作用機序の解明	2021 ~ 2022
基盤研究 (C)	精神医学	講師	山内 崇平	自閉スペクトラム症における M2 マクロファージ機能不全に着目した病態解明	2018 ~ 2022
基盤研究 (C)	老年看護学	教授	澤見 一枝	認知症予防における発展的介入：居宅や施設を訪問して介入する人材の養成と効果の検証	2018 ~ 2022
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	非常勤講師	熊本 牧子	肺線維症患者に対する間葉系幹細胞療法の臨床応用を目指した有効な新規マーカーの探索	2019 ~ 2022
基盤研究 (C)	整形外科	教授	田中 康仁	間葉系幹細胞シートを用いた神経束移植における新規治療法の確立	2019 ~ 2022
基盤研究 (C)	口腔外科学	教授	桐田 忠昭	DNA 修復経路と細胞内物質輸送を標的とした口腔がん治療法の開発	2019 ~ 2022
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	博士研究員	岩本 淳子	窓側病床への入院が院内転倒予防に及ぼす影響：多施設前向きコホート研究	2019 ~ 2022
基盤研究 (C)	小児看護学	講師	山田 晃子	保護者と子どものかかりつけ医との対話を促進するためのモバイル手帳開発	2019 ~ 2022
基盤研究 (C)	臨床数学	教授	藤本 圭男	非同型な自己正則写像を持つコンパクト複素多様体の研究	2020 ~ 2022
基盤研究 (C)	臨床数学	講師	川口 良	トーリック多様体と凸多面体の双方向にわたる応用研究	2020 ~ 2022
基盤研究 (C)	薬理学	教授	吉栖 正典	伸展負荷による血管平滑筋細胞死での転写因子 Nr4a の役割解明と動脈解離予防薬開発	2020 ~ 2022
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	講師	西尾福 英之	ナノテクノロジーと分子イメージング技術を融合させた新規 IVR 治療の開発	2020 ~ 2022
基盤研究 (C)	循環器内科学	准教授	渡邊 真言	冠動脈石灰化結節の進行を予測する冠動脈プラークおよびリン代謝バイオマーカーの同定	2020 ~ 2022
基盤研究 (C)	輸血部	助教	早川 正樹	循環器疾患に合併する後天性フォンヴィレブランド症候群の診断法・治療戦略の構築	2020 ~ 2022
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	教授	室 繁郎	ヒト肺気腫における肺胞修復機構を CT 画像とマウス実験により評価する手法の確立	2020 ~ 2022
基盤研究 (C)	病原体・感染防御医学	准教授	王寺 幸輝	培養毛包 iFollicle による発毛メカニズムの解析と Wnt シグナルの意義	2020 ~ 2022
基盤研究 (C)	小児科学	准教授	武山 雅博	活性化プロテイン C およびプロテイン S 制御による安定化第 VIII 因子製剤の開発	2020 ~ 2022

Winner Report

研究種目	教室名 (R4.5.1)	職名 (R4.5.1)	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	講師	秦野 修	標的プロテオミクスと質量分析法による塩誘導キナーゼとステロイド産生組織の機能解析	2020～2022
基盤研究 (C)	中央内視鏡部	病院教授	小山 文一	再生医療工学を応用した新しい潰瘍性大腸炎手術の開発	2020～2022
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	学内講師	赤堀 宇広	CD36 発現解析による新規癌運動介入療法の開発	2020～2022
基盤研究 (C)	集中治療部	准教授	恵川 淳二	プレハビリテーションによる脳虚血後の高次脳機能障害の予防及びその機序に関する研究	2020～2022
基盤研究 (C)	中央手術部	助教	阿部 龍一	直腸癌手術における電極付き尿道カテーテルを用いた術中排尿機能モニタリングの検討	2020～2023
基盤研究 (C)	中央手術部	講師	西和田 忠	麻酔関連薬剤の血管内皮グリコカリクスに対する影響および保護物質の検討	2020～2022
基盤研究 (C)	薬理学	准教授	中平 毅一	ミトコンドリア DNA ヘテロプラスミーの制御は敗血症の治療ターゲットになるか？	2020～2022
基盤研究 (C)	集中治療部	助教	園部 奨太	血管内皮細胞から ARDS の病態を解明する - ヒストン修飾酵素 SETDB2 の意義 -	2020～2023
基盤研究 (C)	脳神経外科学	学内講師	松田 良介	膠芽腫に対する NK 細胞と新たな免疫チェックポイント阻害の併用療法の開発	2020～2022
基盤研究 (C)	玉井進記念四肢外傷センター	准教授	河村 健二	骨形成細胞シートと生体内誘導骨形成膜の融合による新規骨再生研究	2020～2022
基盤研究 (C)	整形外科	学内講師	稲垣 有佐	ヒト人工多能性幹細胞の酸素濃度に着目した変化の検証と変形性膝関節症の病態解明	2020～2022
基盤研究 (C)	泌尿器科学	講師	中井 靖	腎細胞癌に対する 5- アミノレプリン酸によるミトコンドリア内鉄利用による抗腫瘍効果	2020～2022
基盤研究 (C)	泌尿器科学	准教授	鳥本 一匡	間質性膀胱炎の脂質代謝に着目した病態解明と血液バイオマーカー開発	2020～2022
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	木村 麻衣	HNF1 β -USP28-CLASPIN-Chk1 阻害に対する合成致死候補の検索	2020～2022
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	小林 浩	子宮腺筋症の重症度を非侵襲的に予測する質的画像診断法の確立	2020～2022
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	重富 洋志	チョコレート嚢胞の癌化を高い精度で予測する検査法の安全性・有効性の検証	2020～2022
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	非常勤講師	今井 貴夫	偏中心回転刺激時のマウスの眼球運動解析	2020～2022
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	博士研究員	清水 直樹	3 次元病理診断による潜在の高悪性度甲状腺癌の抽出	2020～2022
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	前庭リハビリテーションが静的動的な前庭代償に与える効果の基礎医学的エビデンス構築	2020～2022
基盤研究 (C)	口腔外科学	学内講師	上田 順宏	定量評価に基づく顎骨再建シミュレーションと高精度手術デバイスの開発	2020～2022
基盤研究 (C)	微生物感染症学	講師	中野 章代	野菜、野生動物における薬剤耐性菌の実態解明ならびにヒトへの伝播リスク評価	2020～2022
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	室内の寒冷曝露と心血管疾患リスクに関する前向きコホート研究	2020～2022
基盤研究 (C)	臨床研究センター	特任講師	平田 匠	環境因子と高血圧の関連に及ぼす遺伝子因子の影響に関する検討	2020～2022
基盤研究 (C)	基礎看護学	教授	松田 明子	RA 患者の周術期におけるハイリスク薬剤管理に関する医療安全教育プログラム構築	2020～2023
基盤研究 (C)	精神看護学	講師	奥田 淳	医療観察法通院処遇対象者への訪問看護における看護実践指針の開発	2020～2023
基盤研究 (C)	精神看護学	講師	橋本 顕子	地域で生活する統合失調症をもつ男性が抱える恋愛や性行為特有の問題への支援	2020～2022
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	講師	松本 壮平	上部消化管手術後の消化管運動および栄養状態と咀嚼力の関連性	2020～2022
基盤研究 (C)	整形外科	博士研究員	高木 都	関節リウマチを含む変形性膝関節症の発症メカニズム解明と治療法開発	2020～2022
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	大森 斉	がん性心筋障害の原因としてのミトコンドリア DNA の解析	2020～2022
基盤研究 (C)	組換え DNA 実験施設	教育教授	杉浦 重樹	酸化的 DNA 損傷に対する人為的な修復亢進-色素性乾皮症治療を目指して-	2020～2022
基盤研究 (C)	組換え DNA 実験施設	博士研究員	森 俊雄	ヒト脳オルガノイドを用いた色素性乾皮症 A 群患者の進行性神経障害の機構解析	2020～2022
基盤研究 (C)	第一生理学	教授	齋藤 康彦	モノアミンによる眼球運動系神経積分器の修飾機構	2021～2023
基盤研究 (C)	第二解剖学	教授	和中 明生	真皮マクロファージにおける新規の炎症疼痛制御因子の機能解析	2021～2023
基盤研究 (C)	生化学	助教	山内 晶世	膵 β 細胞におけるグルコース応答性インスリン翻訳調節機構の解明	2021～2023
基盤研究 (C)	病理診断学	准教授	藤井 智美	浸潤性膀胱癌に特異的に発現するマイクロ RNA および分化マーカーの発現機序の解明	2021～2023
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	羅 奕	マイクロ RNA を用いた HMGB1 標的化 - 新規トリプルネガティブ乳癌治療戦略の検討	2021～2023
基盤研究 (C)	化学	准教授	山本 恵三	新規抗菌薬開発に向けた IMP 型メタロ - β - ラクターマーゼと基質複合体の X 線結晶解析	2021～2023
基盤研究 (C)	免疫学	助教	王寺 典子 (下嶋典子)	免疫チェックポイント分子 HLA-F を標的とした新規がん免疫療法の開発	2021～2023
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	助教	越智 朋子	ナノ DDS を応用した腎毒性を低減できる新規ヨード造影剤の開発と体内動態の解明	2021～2023
基盤研究 (C)	総合画像診断センター	助教	山内 哲司	イメージング質量分析を用いた肝細胞癌 TAE 後の再発機序およびバイオマーカー探索	2021～2023
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	教授	田中 利洋	腫瘍内微小環境を考慮したエマルジョンを用いた新規カテーテル治療の開発	2021～2023
基盤研究 (C)	RI 実験施設	准教授	葉子野 元郎	放射線障害に関わる選発性活性酸素と核外シグナルの機構解明	2021～2023
基盤研究 (C)	小児科学	教授	野上 恵嗣	血液凝固の第Ⅷ因子制御に基づく血友病 A 及び血栓性疾患の新規治療薬開発の基礎的研究	2021～2023
基盤研究 (C)	小児科学	博士研究員	小田 朗永	血友病 A インヒビター産生応答を制御する脾臓免疫ニッチの同定	2021～2023
基盤研究 (C)	消化器内科学	教授	吉治 仁志	Drug Repositioning と Leaky Gut 制御による新規肝硬変治療	2021～2023
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	学内講師	市橋 成夫	PAD 患者下肢動脈血行再建後のサルコペニア改善に関する前向きコホート研究	2021～2023
基盤研究 (C)	循環器内科学	講師	尾上 健児	たこつば症候群の発症メカニズム解明を通じた新規心不全治療ターゲットの探索	2021～2023
基盤研究 (C)	免疫学	講師	北畠 正大	脂質代謝関連分子 ANGPTL4 による肺線維症の病態解明と新規治療戦略の確立	2021～2023
基盤研究 (C)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	DIHS における HHV-6 持続感染に着目した自己免疫疾患の発症機序の解明	2021～2023
基盤研究 (C)	乳腺センター	准教授	池田 直也	独自の遺伝子パネル作成によるトリプルネガティブ乳癌の革新的免疫併用治療戦略の構築	2021～2023
基盤研究 (C)	脳神経外科学	博士研究員	本山 靖	陰部テタヌス刺激による小児術中 MEP 増幅法の開発	2021～2023
基盤研究 (C)	救急医学	医員	岡田 博	液体窒素処理による切断肢の長期凍結保存と再接着に関する実験研究	2021～2023
基盤研究 (C)	玉井進記念四肢外傷センター	医員	宮本 拓馬	足部・足関節周囲の筋腱モーメントアームが 3 次元動態に及ぼす影響の検討	2021～2023
基盤研究 (C)	泌尿器科学	教授	藤本 清秀	後腹膜肉腫におけるプレシジョン術前補助免疫化学療法法の確立を目指した基盤研究	2021～2023
基盤研究 (C)	寄附講座 前立腺小線源治療講座	教授 (寄附講座)	田中 宣道	5 - アミノレプリン酸による前立腺癌の放射線増感効果と有害事象抑制効果の同時解明	2021～2023

研究種目	教室名 (R4.5.1)	職名 (R4.5.1)	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	岩井 加奈	子宮腺筋症の遺伝子発現プロファイルによる分類法の確立	2021～2023
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	岡安 唯	骨導超音波を用いた人工内耳のための新しい術前聴力検査の開発	2021～2023
基盤研究 (C)	口腔外科学	講師	堀田 聡	微小動揺を指標としてインプラントの免荷期間を再検証する	2021～2023
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	杉浦 勉	埋入トルク値がインプラント周囲骨の長期安定性に及ぼす影響および適正トルク値の解明	2021～2023
基盤研究 (C)	口腔外科学	准教授	山川 延宏	高悪性度口腔癌の再発・転移にかかわる遺伝子の解明	2021～2023
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	栗原 都	PXDN によるがん代謝と微小環境を標的とした口腔癌の治療ストラテジー	2021～2023
基盤研究 (C)	口腔外科学	医員	松末 友美子	光バイオプシーとリキッドバイオプシーを用いた口腔癌の早期診断システムの開発	2021～2023
基盤研究 (C)	口腔外科学	講師	柳生 貴裕	薬剤関連顎骨壊死の発症メカニズムの解明と新規予防法 / 治療法の開発	2021～2023
基盤研究 (C)	口腔外科学	医員	山本 一彦	抗 claudin-4 抗体による口腔癌に対する化学療法増強効果	2021～2023
基盤研究 (C)	消化器内科学	准教授	赤羽 たけみ	歯周病と慢性肝疾患病態の関連解明—新たな肝疾患進展予防施策の探索	2021～2023
基盤研究 (C)	整形外科	博士研究員	田中 誠人	がん骨転移診療システム構築に向けての取り組み	2021～2024
基盤研究 (C)	臨床研究センター	教授	笠原 正登	腎臓病進展予防を目指した治療介入アプリの開発	2021～2023
基盤研究 (C)	女性研究者・医師支援センター	講師	須崎 康恵	女性医師のアカデミックキャリア向上を目指した新たな教育プログラムの開発	2021～2024
基盤研究 (C)	教育開発センター	特任講師	岡本 左和子	在宅医療・介護職視点の認知ギャップを踏まえた医療介護連携促進への対策ツールの開発	2021～2023
基盤研究 (C)	糖尿病・内分泌内科学	医員	毛利 貴子	糖尿病患者の治療意欲を引き出す新たな行動変容促進アプローチの開発	2021～2023
基盤研究 (C)	微生物感染症学	准教授	中野 竜一	抗菌薬治療に伴う薬剤耐性菌出現の実態解明ならびにそのメカニズム解明	2021～2023
基盤研究 (C)	糖尿病・内分泌内科学	講師	岡田 定規	レセプト情報を用いた新たな糖尿病性腎症重症化ハイリスク因子の探索	2021～2023
基盤研究 (C)	糖尿病・内分泌内科学	医員	紙谷 史夏	SGLT2 阻害薬で下肢切断リスクは増えるのか? : ビッグデータを用いた解析	2021～2023
基盤研究 (C)	法医学	教授	粕田 承吾	スズラン毒 (convallatoxin) の凝固機能に及ぼす影響	2021～2023
基盤研究 (C)	成人慢性看護学	准教授	升田 茂章	分子標的薬内服治療による手足皮膚反応重症化を予防する看護ケアガイドラインの開発	2021～2023
基盤研究 (C)	在宅看護学	助教	西森 旬恵	マッサージを用いた看護基礎教育プログラムの開発と教育的効果の検証	2021～2023
基盤研究 (C)	母性看護学	教授	五十嵐 穂子	入院時の分娩進捗度と医療介入の関連を基軸とした入院のための診断基準の構築	2021～2023
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	藤井 澄	COVID-19 関連サルコペニアに対する栄養介入と運動負荷の併用の効果	2021～2023
基盤研究 (C)	精神医学	博士研究員	松田 康裕	高機能自閉症者に適した低強度運動プログラムの効果検証	2021～2023
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	久保 薫	シンバイオティクスの粘膜免疫機構を活かした自己免疫疾患の予防・治療に関する研究	2021～2023
基盤研究 (C)	法医学	講師	工藤 利彰	拡張不全における新規誘導型内皮由来過極因子による末梢循環調節機構の解明	2021～2023
基盤研究 (C)	化学	講師	松平 崇	星形構造を持つヘモグロビンポリマーの創製と赤血球代替物への応用を志向した物性制御	2021～2023
基盤研究 (C)	人間発達学	教授	太田 豊作	自殺予防のための自閉スペクトラム症のある子どもの自殺リスクと自尊感情の検討	2022～2024
基盤研究 (C)	第一解剖学	講師	堀井 謹子	未知なものに対する不安・葛藤と行動を調節する神経回路の解明	2022～2025
基盤研究 (C)	生物学	講師	小林 千余子	淡水棲マズスラグがもつ3つの謎 (性決定、芽体形成、生物伝播) の解明に迫る	2022～2025
基盤研究 (C)	第二解剖学	准教授	辰巳 晃子	脳内に局在する Olig2 由来アストロサイト亜集団の機能解析	2022～2024
基盤研究 (C)	脳神経内科学	准教授	形岡 博史	コロナ禍とパーキンソン病患者: うつ症状の経年変化、睡眠・身体活動測定値の前後比較	2022～2025
基盤研究 (C)	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	オートファジー関連神経筋疾患におけるタンパク質恒常性の破綻機序解明	2022～2024
基盤研究 (C)	脳卒中センター	病院教授	斎藤 こそえ	超高速超音波イメージングを用いた血流解析による頸動脈プラーク不安定性評価	2022～2025
基盤研究 (C)	精神医学	講師	鳥塚 通弘	免疫系細胞とヒト iPS ニューロン共培養系による ASD の病態解析	2022～2024
基盤研究 (C)	RI 実験施設	博士研究員	小橋川 新子 (菓子野新子)	ミトコンドリアからのシグナルは放射線による炎症誘発に与するか?	2022～2024
基盤研究 (C)	小児科学	講師	荻原 建一	血友病 A とフォンウィルブラント病治療薬の半減期を規定するクリアランス受容体の探索	2022～2024
基盤研究 (C)	消化器内科学	博士研究員	守屋 圭	抗酸化 Nrf2 経路賦活による PBC の病態改善 —ヘスペリジンを用いた新治療—	2022～2024
基盤研究 (C)	消化器内科学	医員	高谷 広章	血液凝固抑制因子 ADAMTS13 による急性肝不全新規治療法とバイオマーカーの開発	2022～2024
基盤研究 (C)	循環器内科学	助教	中川 仁	ネプリライシンの心不全改善効果に寄与する基質の優位性の解明	2022～2024
基盤研究 (C)	病原体・感染防御医学	助教	北村 知高	肺由来コンボジットマテリアルによる多能性幹細胞から肺オルガノイドの創出と機能解析	2022～2024
基盤研究 (C)	輸血部	教授	松本 雅則	後天性・血栓性血小板減少性紫斑病の動物モデルの作成	2022～2024
基盤研究 (C)	微生物感染症学	教授	矢野 寿一	高病原性を示すカルバペネマーゼ産生肺炎桿菌の分子疫学と治療法構築に向けた研究	2022～2024
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	准教授	澤井 利夫	新生児壊死性腸炎の新たな病因および治療: 消化管サーファクタントの関与の検討	2022～2024
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	講師	久下 博之	クローン病肛門病変に対する組織工學および免疫制御による新規局所療法の開発	2022～2024
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	紙谷 直毅	PDX-M を利用した膵臓癌に対する PGV-1 による新規薬剤の開発	2022～2024
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	安田 里司	肝細胞癌に対する血管新生阻害併用免疫療法における耐性機序の解明と新規治療法の開発	2022～2024
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	寺井 太一	CA9 を標的とした膵癌の予後予測と個別化新規治療戦略の開発	2022～2024
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	宮尾 晋太郎	FFPE 標本に対する超高感度微量解析のための革新的 cDNA 合成法の開発	2022～2024
基盤研究 (C)	がんゲノム・腫瘍内科学	医員	竹井 健	免疫グロブリン膜貫通型糖タンパク Nectin-4 阻害による大腸癌新規治療法の探求	2022～2024
基盤研究 (C)	胸部・心臓血管外科学	助教	武村 潤一	人工赤血球を用いた人工心肺充填による臓器保護効果	2022～2024
基盤研究 (C)	中央手術部	医員	大井 彩子	子宮癌手術中における電極付き尿道カテーテルを用いた排尿機能モニタリングの有用性	2022～2025
基盤研究 (C)	集中治療部	助教	野村 泰充	救命救急センターで分離された ESB 産生大腸菌の患者背景と分子疫学的解析	2022～2024
基盤研究 (C)	救急医学	助教	川井 廉之	敗血症の原因菌に対する迅速同定検査法の確立	2022～2024
基盤研究 (C)	脳神経外科学	博士研究員	中澤 務	チェックポイント分子 HIF1 α をゲノム編集した NK 細胞による膠芽腫治療法の開発	2022～2024
基盤研究 (C)	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	脳虚血に対する脂肪組織由来幹細胞とエクソソーム治療の基盤的研究	2022～2024

Winner Report

研究種目	教室名 (R4.5.1)	職名 (R4.5.1)	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (C)	脳卒中センター	病院教授	中川 一郎	ミトコンドリアカルシウムユニポーターを介した虚血耐性メカニズムの解明	2022～2024
基盤研究 (C)	整形外科	講師	藤井 宏真	小児大腿骨頭壊死に対する改良骨髄間葉系幹細胞を用いた新規治療法の開発	2022～2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	今中 聖悟	子宮内膜症に対する酸化的自爆死を誘導する非ホルモン治療法の開発	2022～2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	山田 有紀	がん関連血栓症における新規卵巣癌マーカー TFPI-2 の作用機序の解明	2022～2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	松原 翔	新たな腫瘍マーカー組織因子経路インヒビター 2 による卵巣腫瘍の良悪性の鑑別	2022～2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	三宅 龍太	eEF1a2 を target にした卵巣明細胞癌に対する新規治療法の開発	2022～2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	吉元 千陽	新たな磁気共鳴緩和測定法を用いた子宮内膜症関連不妊症の重症度の非侵襲的予知	2022～2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	山中 彰一郎	ARID1A 遺伝子変異卵巣明細胞癌に対する CDC6 による合成致死メカニズムの解明	2022～2024
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	木村 隆浩	頭頸部癌患者から作成したスフェロイドを用いたがん微小環境による EMT 誘導の解析	2022～2024
基盤研究 (C)	眼科学	医員	吉川 匡宣	生体リズムに着目した緑内障患者の新たな眼外・眼内因子の探索：前向きコホート研究	2022～2024
基盤研究 (C)	口腔外科学	助教	仲川 洋介	PIKK ファミリー関連 DNA 修復機構を標的とする新規口腔がん治療戦略	2022～2025
基盤研究 (C)	哲学	准教授	池辺 寧	ハイデガーを手がかりにした現象学的医学哲学の構築	2022～2024
基盤研究 (C)	県民健康増進支援センター	特任准教授	富岡 公子	健康長寿のための新しい生活様式—地域前向きコホート研究と公的統計を用いた研究—	2022～2024
基盤研究 (C)	在宅看護学	講師	栗田 麻美	がん終末期在宅療養者における訪問看護師の臨床判断学習支援プログラムの開発	2022～2025
基盤研究 (C)	成人慢性期看護学	教授	田中 登美	がん薬物療法を受ける糖尿病を併せもつがん患者のセルフマネジメント橋渡し支援の開発	2022～2025
基盤研究 (C)	母性看護学	講師	上田 佳世	低リスク出産の医療の質指標を用いた医療ケアの改善に向けたプログラムの運用	2022～2024
基盤研究 (C)	小児看護学	教授	川上 あずさ	自閉スペクトラム症児の母親の情緒的巻き込まれに着目した支援方法の構築	2022～2024
基盤研究 (C)	看護実践・キャリア支援センター	講師	渋谷 洋子	思春期に骨肉腫を経験する子どもと親の闘病プロセスの解明	2022～2024
基盤研究 (C)	在宅看護学	助教	羽場 香織	喉頭摘出者の暮らしの再構築に向けた訪問看護師による支援の探究	2022～2024
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	佐々木 隆光	ミトコンドリア標的化による抗がん剤誘導心筋障害の改善	2022～2024
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	川原 勲	糖化 HMGb1 の糖尿病性フレイルにおける役割とその抑制法の検討	2022～2024
基盤研究 (C)	化学	博士研究員	山田 孫平	リソソーム化した複合抗酸化剤による人工赤血球のメト化抑制とその機構の解明	2022～2024
挑戦的研究 (萌芽)	分子病理学	教授	國安 弘基	ミトコンドリアトランスファーによる抗がん剤耐性誘導を標的とする骨肉腫の治療戦略	2020～2022
挑戦的研究 (萌芽)	病原体・感染防御医学	教授	吉川 正英	吸血虫モデルによる in vitro 発育システムの開発	2021～2023
若手研究	脳神経内科学	医員	井口 直彦	Danon 病のヒト病態モデルを用いた解析	2019～2022
若手研究	小児科学	助教	古川 晶子	血友病 A 治療におけるインヒビター発生抑制を標的とした新規第 VIII 因子製剤の開発	2019～2022
若手研究	麻酔科学	博士研究員	寺田 雄紀	メンブレントラフィックに着目した新たな疼痛メカニズムの解明	2019～2022
若手研究	公衆衛生学	非常勤講師	久保 慎一郎	NDB (レセプトデータ) を用いた難病患者の疫学調査の手法開発と治療実態の把握	2019～2022
若手研究	発生・再生医学	助教	長岡 創	転写因子 ZGLP1 によるマウス胎原生殖細胞の雌性運命決定機構の解明	2020～2022
若手研究	精神医学	学内講師	山室 和彦	幼少期社会経験が構築する前頭葉—視床室傍核回路の解明	2020～2022
若手研究	整形外科	博士研究員	増田 佳亮	脊髄離断モデルラットに対する骨髄間葉系幹細胞シート移植における移植時期の検討	2020～2023
若手研究	脳神経内科学	助教	江浦 信之	ヒト脳オルガノイドを用いた難治性中枢神経疾患の病態解明	2020～2022
若手研究	精神医学	助教	岡崎 康輔	成人期自閉スペクトラム症における性差と逆境的小児期体験の影響の検討	2020～2023
若手研究	精神医学	助教	小森 崇史	マイクログリア由来 BDNF が社会性に与える影響の解析	2020～2022
若手研究	放射線診断・IVR 学	医員	松本 武士	がん免疫逃避機構からみた肝動脈塞栓術後再発メカニズムの解明と、新規治療戦略の開発	2020～2022
若手研究	血栓止血薬生化学 共同研究講座	特任助教	坂田 飛鳥	グリコカリックス・赤血球による血栓制御に着目した溶血性尿毒症候群治療法の創出	2020～2022
若手研究	循環器内科学	助教	上田 友哉	ABPM および BIA を用いた、HFpEF の病態および治療開発にむけた研究	2020～2022
若手研究	病原体・感染防御医学	助教	西村 知子	特異性肺線維症における線維芽細胞形成のメカニズム解明：患者肺検体の解析から	2020～2022
若手研究	皮膚科学	特任助教	御守 里絵	分子標的治療薬による皮膚障害発症機序の解明	2020～2022
若手研究	感染症センター	学内講師	今北 菜津子	インフルエンザウイルス感染重症化におけるヒストン修飾酵素 SETDB2 の機能解明	2020～2022
若手研究	消化器・総合外科学	医員	定光 ともみ	骨髄幹細胞移植と血球除去療法併用による難治性潰瘍性大腸炎に対する新規治療法の開発	2020～2022
若手研究	消化器・総合外科学	助教	中出 裕士	Cullin4A を介した食道癌の進展機序の包括的解明と新規治療戦略の開発	2020～2022
若手研究	胸部・心臓血管外科学	助教	平賀 俊	人工赤血球投与による脊髄虚血改善に関する研究	2020～2023
若手研究	麻酔科学	講師	内藤 祐介	ヘモグロビン小胞体の AKI 予防効果についての検討	2020～2023
若手研究	産婦人科学	助教	市川 麻祐子	リソリン脂質経路の絨毛細胞機能への役割と妊娠高血圧腎症の病理機序の解明	2020～2022
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	非常勤講師	伊藤 妙子	メニエール病発症機序の解明。内リンパ水腫はメニエール病の原因か。	2020～2022
若手研究	眼科学	学内講師	辻中 大生	網膜色素上皮の色素産生能が加齢黄斑変性発症に与える役割	2020～2022
若手研究	口腔外科学	医員	今田 光彦	ビスフォスフォネート関連顎骨壊死を予防する塩基性線維芽細胞増殖因子の作用機序解明	2020～2022
若手研究	成人急性期看護学	助教	森脇 裕美	心血管系手術を受ける高齢患者の足の形態および機能の検証とフットケアの実態	2020～2023
若手研究	精神医学	非常勤講師	木納 潤一	統合失調症者に対する運動課題と認知課題の多重課題プログラム CAT の効果検証	2020～2023
若手研究	公衆衛生看護学	講師	堀内 沙央里	奈良県内の地域住民とその環境におけるピロリ菌の蔓延実態ならびに感染源の包括的解明	2020～2022
若手研究	リハビリテーション医学	講師	石田 由佳子	虚弱者に対する身体活動量を指標とした新しい筋電気刺激 EMS 併用リハビリテーション	2020～2022
若手研究	リハビリテーション医学	准教授	眞野 智生	脳卒中運動麻痺に対する運動負荷を基盤とした脳内メカニズム解析	2020～2022
若手研究	第二生理学	助教	吉田 純子	順遺伝学で同定した新規遺伝子によるマウス・ヒトにおける神経分化制御機構の解明	2021～2024
若手研究	未来基礎医学	助教	菊池 壮太郎	減数分裂期の染色体軸形成を担うコヒーシオンと HORMAD1 の構造機能解析	2021～2022
若手研究	発生・再生医学	助教	池田 宏輝	空間的な単一細胞の遺伝子発現解析による胎原生殖細胞の潜在的な多能性の制御機構解明	2021～2023

研究種目	教室名 (R4.5.1)	職名 (R4.5.1)	氏名	研究課題名	研究期間
若手研究	生化学	助教	牧野 舞	2型リアノジン受容体の組織特異的スプライシングバリエーションの心筋機能との関連の解明	2021～2023
若手研究	病理診断学	助教	内山 智子	子宮平滑筋肉腫における ATRX 発現とその機能及び分子機構の解明	2021～2023
若手研究	放射線診断・IVR学	助教	岩越 真一	腹部大動脈瘤に対するステント内挿術後の MRI 画像における Radiomics 解析	2021～2025
若手研究	放射線診断・IVR学	講師	伊藤 高広	トモシンセシスを用いた新たな大腸癌深達度診断法の確立	2021～2022
若手研究	NICU	講師	内田 優美子	光療法は神経毒性をもたらすか？ビリルビン光学異性体と血液脳関門モデルを用いた研究	2021～2022
若手研究	第二生理学	講師	坂野 公彦	オンチップ血管網を用いた Sturge-Weber 症候群モデル構築と発症機序の解明	2021～2023
若手研究	消化器内科学	助教	辻 裕樹	NASH におけるエンドトキシンの腸管内吸着を介した肝発癌抑制治療の開発	2021～2024
若手研究	消化器内科学	学内講師	西村 典久	加齢による肝線維化進展促進に関わる新たな因子の同定とその分子学的メカニズム	2021～2023
若手研究	血栓止血先端医学	助教	三谷 成二	幹細胞由来肝類洞内皮細胞の作製と肝線維化治療への応用	2021～2023
若手研究	循環器内科学	医員	中野 知哉	心不全患者の心筋組織を用いた β アドレナリン受容体遮断薬の治療反応性予測指標の探索	2021～2023
若手研究	腎臓内科学	講師	江里口 雅裕	ネプリライシンとアンジオテンシン変換酵素による腎臓での塩分ハンドリングと血圧調節	2021～2023
若手研究	総合医療学	講師	大野 史郎	虚血再灌流性および薬剤性腎傷害と血小板血栓制御系の関連	2021～2023
若手研究	脳神経内科学	博士研究員	正島 良悟	間歇的低酸素が筋細胞においてインスリン抵抗性関連遺伝子発現に与える影響	2021～2022
若手研究	消化器・総合外科学	助教	西和田 敏	個別化治療を目指した網羅的解析による膵癌再発予測 miRNA パネルの開発	2021～2023
若手研究	消化器・総合外科学	医員	洲尾 昌伍	難治性小児固形癌に対する新たな免疫ターゲットの探索と治療法の開発	2021～2023
若手研究	消化器・総合外科学	医員	松尾 泰子	大腸癌肝転移における CD200 を介した治療抵抗性獲得機構の解明と新規治療法の開発	2021～2023
若手研究	消化器・総合外科学	助教	長井 美奈子	膵癌治療抵抗性関連分子の発現制御による新規集学的治療戦略の開発	2021～2023
若手研究	消化器・総合外科学	助教	國重 智裕	ユビキチン修飾系を標的とした新規消化器癌治療法の開発	2021～2023
若手研究	整形外科	医員	岡村 建祐	ヒト人工多能性幹細胞由来の骨形成細胞集合体を用いた再生医療の検討	2021～2023
若手研究	MFICU	助教	河原 直紀	卵巣明細胞癌における ARID1A 変異に対する CCNE1 の合成致死メカニズムの解明	2021～2023
若手研究	口腔外科学	博士研究員	高橋 佑佳	味蕾の細胞増殖や維持、再生メカニズムの解明	2021～2023
若手研究	成人急性期看護学	准教授	松田 常美	療養病床や介護療養病床で勤務する援助者のスキントアの認識と対応からの予防策の構築	2021～2023
若手研究	疫学・予防医学	助教	山上 優紀	COVID-19 感染拡大が身体活動量およびサルコペニア・フレイルに及ぼす影響	2021～2023
若手研究	分子病理学	博士研究員	森 拓也	骨格筋特異的マイクロ RNA による COVID-19 関連骨格筋障害の抑制	2021～2022
若手研究	微生物感染症学	助教	鈴木 由希	病院排水を利用した薬剤耐性菌監視システムの構築と耐性遺伝子拡散機構の解明	2021～2023
若手研究	第一生理学	助教	杉村 岳俊	視線保持に関する神経積分器の神経ネットワーク基盤	2022～2024
若手研究	寄附講座 V-iCliniX 講座	助教 (寄附講座)	中西 真理	疾患関連 HLA 多型性の分子構造解析	2022～2024
若手研究	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	タンパク質の制御機構からみた ALS/FTD の病態解明	2022～2024
若手研究	精神医学	助教	高橋 誠人	自閉スペクトラム症における文化的自己観の神経基盤	2022～2025
若手研究	寄附講座 血栓止血分子病態学講座	助教 (寄附講座)	下西 成人	血栓症を呈した新規凝固第 V 因子異常症における抗凝固機能低下機序の解明	2022～2024
若手研究	血栓止血先端医学	特任助教	中島 由翔	血友病 A 治療における高機能型第 FVIII 因子製剤の開発	2022～2024
若手研究	消化器内科学	医員	小川 裕之	Lenvatinib による門脈圧亢進抑制効果の検討	2022～2025
若手研究	消化器内科学	医員	石田 光志	アルコール性肝発癌の機序と Nr2f2 活性化による多面的発癌抑制作用の検討	2022～2024
若手研究	循環器内科学	助教	中田 康紀	NADPH オキシダーゼ構成因子 p22phox を標的とした新規心不全治療への展開	2022～2023
若手研究	循環器内科学	医員	野木 一孝	特定健診項目を用いた心不全早期診断アルゴリズムの開発	2022～2023
若手研究	腎臓内科学	医員	西本 雅俊	近位尿管におけるネプリライシンの存在意義と急性・慢性の腎障害に対する予防効果	2022～2024
若手研究	臨床研修センター	助教	大西 智子	包括的凝固線溶解解析を基盤とする播種性血管内凝固と COVID-19 の治療戦略の構築	2022～2024
若手研究	がんゲノム・腫瘍内科学	医員	岩佐 陽介	BRAF 変異大腸癌における CD200 発現の意義と CD200 抗体による治療法の開発	2022～2024
若手研究	分子病理学	博士研究員	西口 由希子	糖化 HMGB1 の消化器癌における役割の検討	2022～2024
若手研究	中央内視鏡部	助教	尾原 伸作	生体吸収性ステントによる消化管縫合不全の新規治療法開発を目指した基礎的研究	2022～2024
若手研究	消化器・総合外科学	博士研究員	中川 顕志	胆膵癌における治療抵抗性獲得機序の解明とその克服による新規集学的治療法の開発	2022～2024
若手研究	麻酔科学	学内講師	田中 暢洋	侵害受容刺激モニターによる手術侵襲度評価の妥当性・バイオマーカーを用いた検討	2022～2024
若手研究	脳神経外科学	博士研究員	森本 堯之	TIGIT ノックアウトヒト NK 細胞を用いた膠芽腫に対する新規治療法の開発	2022～2024
若手研究	地域医療学講座	特任助教	倉田 慎平	肩鎖関節脱臼における肩鎖、烏口鎖骨靭帯の生体力学的研究	2022～2025
若手研究	整形外科	助教	井上 和也	人工肩関節置換術後における有限要素法を用いた上腕骨応力変化の検討	2022～2024
若手研究	泌尿器科学	助教	森澤 洋介	膀胱での尿再吸収機構と夜尿症の病態解明を目指した基礎研究	2022～2023
若手研究	泌尿器科学	助教	後藤 大輔	低リノール酸環境マウスと LPA1 受容体ノックアウトマウスの下部尿路機能の変化	2022～2024
若手研究	病理診断学	医員	杉本 澄美玲	漿液性卵巣癌における卵管前癌病変の発症機序解明	2022～2024
若手研究	法医学	助教	勇井 克也	敗血症性ショックにおける 2-AG による末梢循環の新規分子機構の解明	2022～2025
若手研究	分子病理学	博士研究員	後藤 桂	中鎖脂肪酸を用いたがん性サルコペニア治療の臨床応用の検討	2022～2024
特別研究員奨励費	病原体・感染防御医学	特別研究員 (DC1)	三須 政康	重症熱性血小板減少症候群ウイルスに対する感染阻止モノクローナル抗体の探索	2020～2022
特別研究員奨励費	血栓止血先端医学	特別研究員 (DC2)	小野寺 悠	血友病 A 治療を目指した血液凝固第 VIII 因子産生共培養細胞シートの開発と応用	2022～2023

大学院入試日程

令和4年度 秋入学 大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	若干名	令和4年7月11日(月)～7月15日(金)	令和4年8月1日(月)	令和4年9月13日(火)

- 社会人※の入学も可能です。
- 社会人には、長期履修制度を設けています。

令和5年度 大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	40	第一次募集 令和4年10月11日(火)～10月14日(金)	第一次募集 令和4年10月31日(月)	第一次募集 令和4年12月13日(火)
		第二次募集 令和5年1月10日(火)～1月13日(金)	第二次募集 令和5年1月30日(月)	第二次募集 令和5年3月7日(火)

- 社会人※の入学も可能です。
- 社会人には、長期履修制度を設けています。
- 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。
- 令和5年度秋入学の実施については未定です。
- 大学院修学資金貸与制度（要件を満たした場合返還免除）があります。
- 「分子医化学」は、今年度は募集しません。

令和5年度 大学院医学研究科（修士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	5	第一次募集 令和4年10月3日(月)～10月7日(金)	第一次募集 令和4年10月31日(月)	第一次募集 令和4年12月13日(火)
		第二次募集 令和5年1月4日(水)～1月6日(金)	第二次募集 令和5年1月30日(月)	第二次募集 令和5年3月7日(火)

- 社会人※の入学も可能です。但し、令和5年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
- 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。
- 「分子医化学」は、今年度は募集しません。

令和5年度 大学院看護学研究科（修士課程）

専攻	コース	専門	募集人員
看護学	看護学コース	【領域】 健康科学 基礎看護学 看護実践応用学 がん看護学 高齢者看護学	小児看護学 公衆衛生看護学 在宅看護学 女性健康・助産学 【精神看護学】
		高度実践看護師教育課程（クリティカルケア看護分野、がん看護分野） 周麻酔期看護師教育課程	
	助産学実践コース	【領域】 女性健康・助産学	5

出願期間	試験日	合格者発表
第一次募集 令和4年7月20日(水)～7月27日(水)	第一次募集 令和4年8月22日(月)	第一次募集 令和4年9月13日(火)
第二次募集 令和4年10月20日(木)～10月25日(火)	第二次募集 令和4年12月1日(木)	第二次募集 令和4年12月13日(火)

- 社会人※の入学も可能です。但し、令和5年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
- 社会人には、長期履修制度を設けています。
- 本学学部からの進学者、奈良県内に住所を有し要件を満たす者については入学金が免除される入学金免除制度があります。
- 高度実践コース（クリティカルケア看護分野、がん看護分野）及び助産学実践コースについては、修業中は学業に専念できる者とします。
- 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。
- 「精神看護学」は、今年度は募集しません。

※社会人とは医療・保健・福祉施設、教育・研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

公開講座情報

令和4年度前期 奈良県立医科大学 公開講座「くらしと医学」

開催日：令和4年10月1日(土) 13:30～15:30
場所：橿原文化会館 大ホール
概要：日頃の研究成果等を県民の皆さんにわかりやすく解説します
講演者：病原体・感染防御医学 吉川 正英 教授
脳神経外科学 中瀬 裕之 教授
看護学科 臨床病態医学 濱田 薫 教授
対象：県民
定員：300名
備考：参加無料
問合せ先：奈良県立医科大学
総務広報課、県民健康増進支援センター
TEL：0744-22-3051 (内線 2297、2206)
※新型コロナウイルスの感染状況により変更になる可能性があります。

学報編集委員会からのお知らせ

寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関すること、お知らせ等を掲載するため、これらに関連する記事を広く募集しております。

掲載を希望する記事がある場合は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、令和4年6月末で累計 3,769 件のご寄附をいただいております。
なお、今号では、令和4年4月～令和4年6月にご寄附いただいた方のご芳名を掲載しております。

【個人】

◆100万円以上

坂本 光章 様

◆30万円以上100万円未満

浅田 秀夫 様 大林 賢史 様 小泉 宗久 様
小林 昌義 様 嶋田 庸子 様 高倉 義典 様
武田 真幸 様 中谷 晃 様 林 博文 様
藤本 清秀 様 安田 周司 様 渡邊 愛子 様
渡邊 巖 様

◆10万円以上30万円未満

井上 進敬 様 高濱 潤子 様 高濱 誠 様
吉矢 和彦 様

掲載を希望されないご寄附者様 4名

◆10万円未満

中牟田智子 様 松本 雅充 様 矢野富士夫 様
山佐 義行 様

掲載を希望されないご寄附者様 8名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

太田 一郎 様 小野寺隆平 様 下岡 靖宣 様
吉治 仁志 様

【法人・企業】

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

一般社団法人インフォカート未来基金 様

奈良県立医科大学 総務広報課

TEL：0744-22-3051 (内線：2803) E-mail：hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

未来への飛躍基金 HP：https://www.narmed-u.ac.jp/~hiyakukikin/ または「未来への飛躍基金」で検索！



Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

	日付	媒体	対象者	掲載概要
2022年	5月12日	毎日新聞	県民健康増進支援センター 特任准教授 富岡 公子	保健師多い地域低罹患率「疫学調査感染防止に寄与」
	5月12日	読売新聞	県民健康増進支援センター 特任准教授 富岡 公子	保健師多いと罹患率低く 県立医大調査「コロナ抑制切り札に」
	5月13日	朝日新聞	県民健康増進支援センター 特任准教授 富岡 公子	保健師多→感染者の割合低 県立医大調べ
	5月14日	産経新聞	県民健康増進支援センター 特任准教授 富岡 公子	保健師多い自治体罹患率低く 奈良県立医大グループ分析
	5月16日	奈良新聞	県民健康増進支援センター 特任准教授 富岡 公子	新型コロナ保健師数と罹患率に相関 県立医大の研究グループが分析
	5月17日	Medical Tribune Web	県民健康増進支援センター 特任准教授 富岡 公子	保健師数がコロナ感染抑制に関与
	5月19日	奈良テレビ ゆうドキッ!	県民健康増進支援センター 特任准教授 富岡 公子	県立医科大学が研究発表 保健師数と新型コロナに罹患率に関連
	5月31日	Medical Tribune Web	眼科学 医 員 吉川 匡宣	緑内障で生体リズムが乱れる理由
	6月1日	m3.com	総合医療学 教 授 西尾 健治	vol.1 「コロナなんて診てられない?」 診療体制整備でぶつかった壁
	6月2日	NHK 奈良 ならナビ	脳神経内科学 教 授 杉江 和馬	MBT映画祭2021 上映作品「豊かに生きるマニュアル」に出演した難病患者とその家族、主治医が、作品を通して訴求したかった"いのち"に対する想いをインタビュー
	6月2日	Medical Tribune 新聞	県民健康増進支援センター 特任准教授 富岡 公子	コロナ感染抑制 保健師数が関連
	6月4~25日 (毎週土曜)	ラジオ大阪 あすの健康を願って	口腔外科学 教 授 桐田 忠昭	歯と口腔の病気と健康について
	6月5日	大阪保険医新聞	県民健康増進支援センター 特任准教授 富岡 公子	保健師が多いとコロナ罹患率は低下
	6月7日	NHK 大阪 ニュースほっと関西	脳神経内科学 教 授 杉江 和馬	MBT映画祭2021 上映作品「豊かに生きるマニュアル」に出演した難病患者とその家族、主治医が、作品を通して訴求したかった"いのち"に対する想いをインタビュー
	6月10日	m3.com	総合医療学 教 授 西尾 健治	vol.2 外科や眼科、皮膚科もコロナ患者の「主治医」に
	6月16日	m3.com	総合医療学 教 授 西尾 健治	vol.3 「実績作りのため」病院全体巻き込んだコロナ診療体制に批判も
	6月18日	読売新聞	整形外科学 教 授 田中 康仁	「からだの質問箱」アキレス腱手術後の痛みについて
	7月2~30日 (毎週土曜)	ラジオ大阪 あすの健康を願って	脳神経内科学 教 授 杉江 和馬	頭痛について

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

編集後記

皆様からご協力いただき学報第81号を発行することができました。ご協力・ご支援いただいたみなさまに深く感謝申し上げます。

今号の表紙はなかよし保育園の七夕行事の様子です。園児たちが、願いごとを書いた短冊や笹飾りを、保育士さんといっしょに自分の背丈よりもはるかに大きな笹竹に飾り付けていました。また、P.17では附属病院北玄関の七夕飾りについても紹介しています。

学報では、教職員の皆様からの記事を随時募集しています。記事掲載を希望される方は総務広報課までご連絡ください。

